

運命
判断

占とまじないの秘法

特 259

208

6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

始



特 259
208.

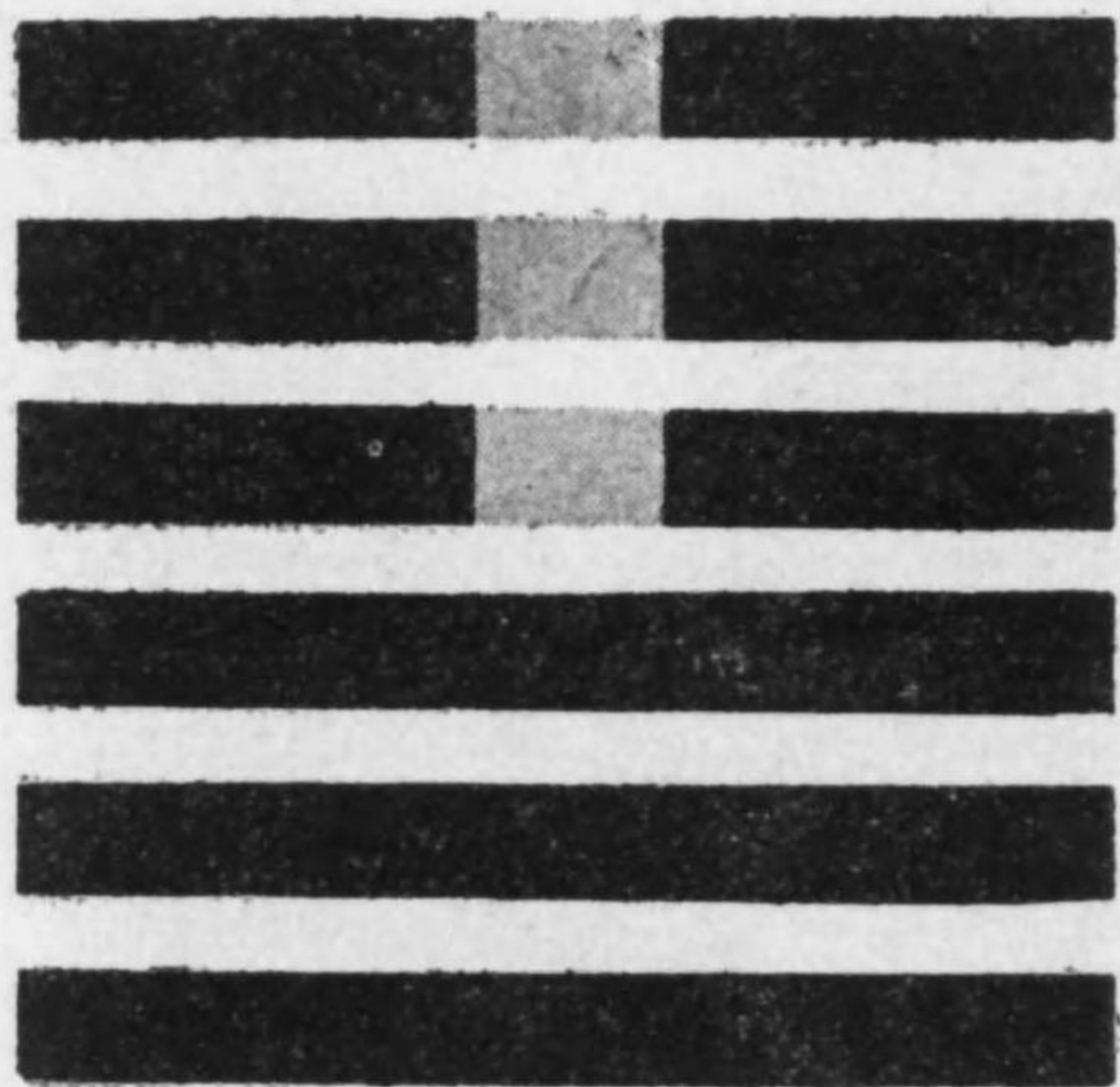


如舟堂主人著

占うらなひとまじないの秘法

忠文館書店刊





以上に掲げてありますのが支那太古の
大聖人伏羲氏の發明せられました卦で、
字のやうであつて、字でなく、符牒のやうであつて
符牒でもなく、それかと言つて、畫のやうであつて、
畫でもありません。つまり人體の、
鑛物性を帯びてゐる、骨組を象つてゐる、
あります。第二圖の説明を御覧下さい。

第一圖の一畫が頭蓋骨、第二、第三の畫が左右の上肢骨、第四が脊推骨、第五、第六が左右の下肢骨である、此六つの卦に對して、占者が筮竹を把つてパチ／＼やりますのは、つまり五を以て六の數を割るのです。五を以て六の數を割れば十



二となりませす、十二は即ち十二ヶ月を意味するので人間の吉凶禍福の循環と要するに年即ち十二ヶ月間に起るからです、第一、第二の圖をよく御玩味下さい。

紙丸板下圖



眼目眩移之用



勿与素履并乞
亦思深之求必念

乃
正念

乃
正念
正念



國狹越尊の神字

𠄎

亥卯年の生れの守符

國常立尊の神字

𠄎

子年の生れの守符

尊尼の神字

己未年

己未年の生年守符

豊斟の神字

辰戌年

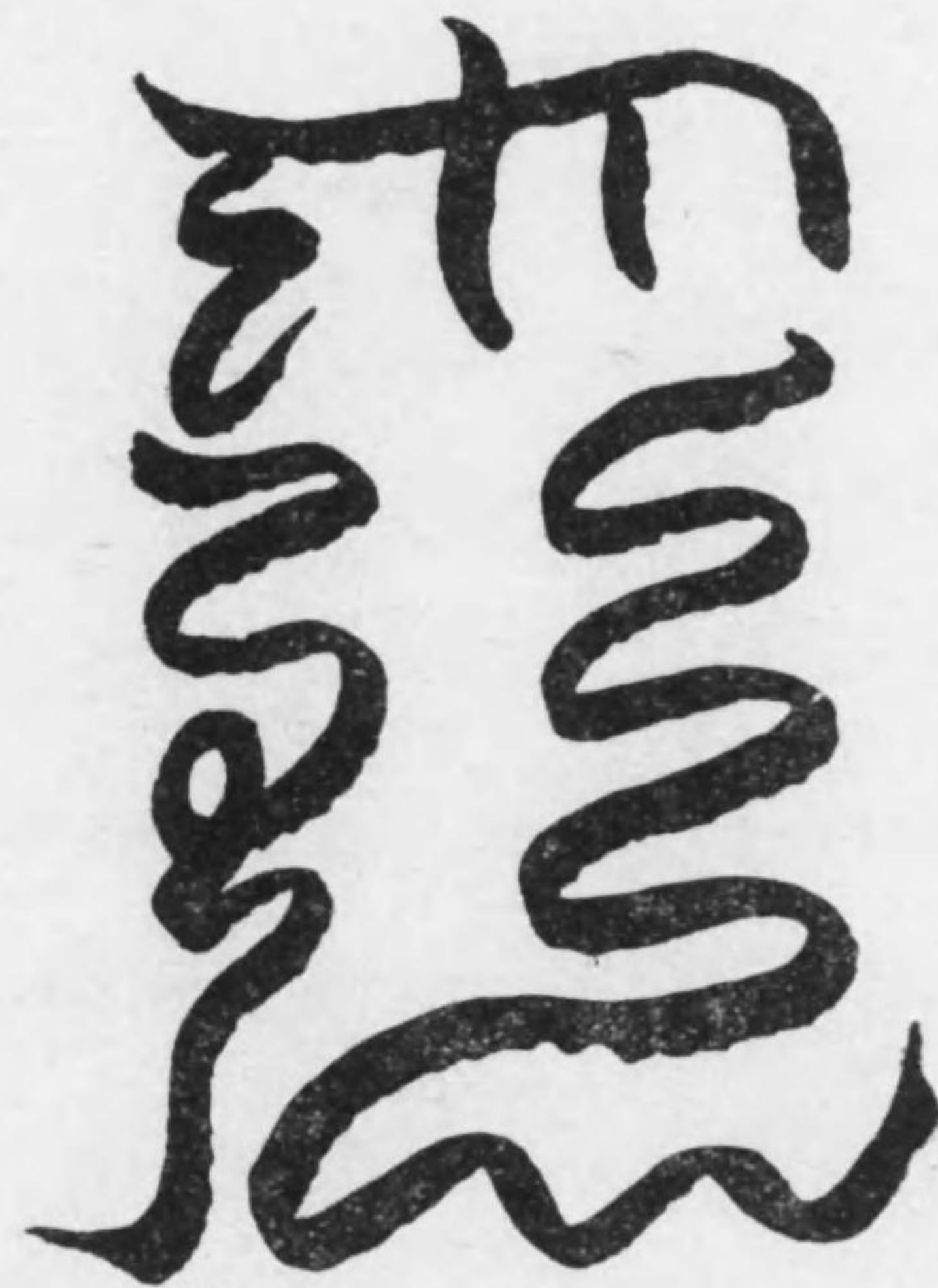
辰戌年の生年守符

伊神の尊煮土泥



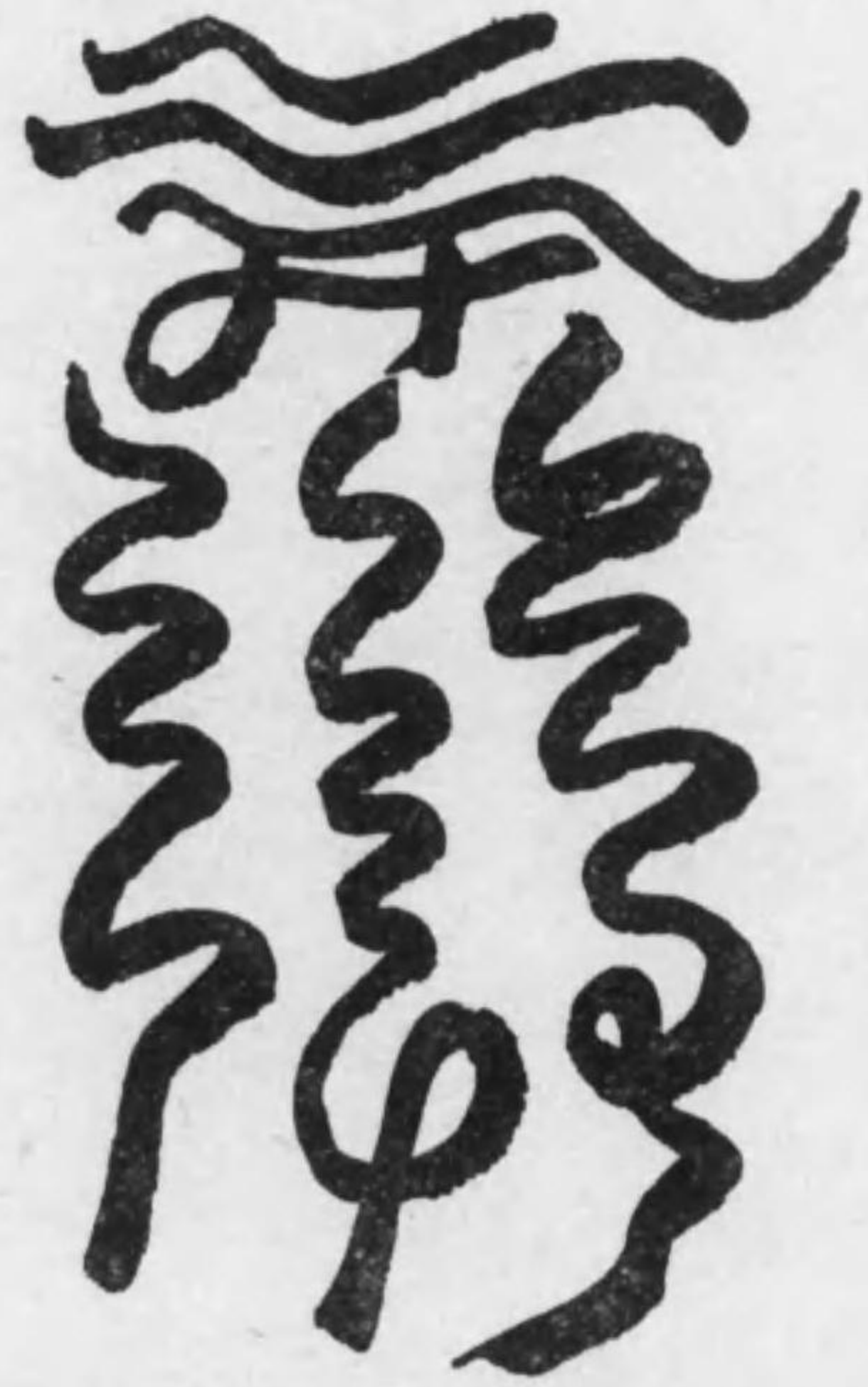
伊神の九生年の酉印

伊神の尊諾伊



伊神の九生年の午

大ア道尊の神字



辰申の年生れの守符

運命判占とまじないの秘法

目次

第一	◎人間の目的と運命	一
第二	(イ)うらなひと禁厭	三
	(ロ)伏羲氏の易	四
	(ハ)一錢銅貨と骰子	六
第三	(イ)九星及び其稱呼	六
	(ロ)五黄中宮	七
	(ハ)暗劍殺	七
第四	(イ)陰陽五行	九
	(ロ)五行と萬物の關係	一〇

目次

一

第五	●相生相尅……………	二二
第六	●陶宮術と十二宮……………	二三
第七	●十二支と卦象……………	二七
第八	(イ)方 位……………	三〇
	(ロ)天盤と地盤……………	三〇
	(ハ)家運の開ける家相……………	三四
	(ニ)家運の傾く家相……………	三五
	(ホ)病人の出来る家相……………	三七
第九	(イ)人生の最大問題……………	三八
	(ロ)男女の相性……………	三八

第十	●生れ月の運勢……………	三五
	一月生れの人……………	三六
	實例 ○豊臣秀吉○勝 海舟○加藤高明○鎌田榮吉……………	三六
	○三井八郎右衛門○ロイド、ジョージ……………	三六
	二月生れの人……………	三七
	實例 ○日蓮上人○大隈重信○原敬○澁澤榮一……………	三七
	○東郷平八郎○ワシントン○リンカーン……………	三七
	三月生れの人……………	三九
	實例 藤田東湖○杉浦重剛○ミケランジェロ○有島武郎……………	三九

四月生れの人……………四一

實例 ○親鸞上人○法然上人○板垣退助○松方 巖……………

○山縣有朋○跡見花蹊○頭山 滿○ビスマルク……………

○シエークスピア……………

五月生れの人……………四三

實例 ○高野長英○三宅雪嶺○坪内逍遙○ダンテ……………

○ヴィクトリア女皇……………

六月生れの人……………四四

實例 ○弘法大師○林 子平○山岡鐵舟○木戸孝允……………

○後藤新平○グノウ○ルーソー……………

七月生れの人……………四六

實例 ○徳川家光○二宮尊徳○岩倉具視○高橋是清……………

○ジュリス○シーザー○ジョン、ロツクフェラー……………

八月生れの人……………四七

實例 ○中將 姫○吉田松蔭○伊達政宗○岩崎小彌太……………

○横田千之助○新渡邊稻造○ナポレオン……………

○ブルフレット、テスソン……………

九月生れの人……………四九

實例 ○渡邊華山○伊藤博文○小村壽太郎○黒岩涙香……………

○大倉喜八郎○トルストイ○エルサベス女皇……………

○ネルソン……………

十月生れの人……………五一

實例 ○由井正雪○大山 巖○西園寺公望……………

○山本權兵衛○安田善次郎○服部金太郎……………

○フォツシユ元帥○キツチナ一元帥○ベルグソン……………

十一月生れの人……………五二

實例 ○桂 太郎○乃木希典○野津道實○井上 馨……………

○三浦梧樓○島田三郎○尾崎行雄○和田豊治……………

○カーネギー○マルチンルーテル……………

十二月生れの人……………五四

實例 ○徳川家康○西郷隆盛○福澤諭吉○大谷光瑞……………

○床次竹二郎○ニュートン○ウイelson……………

○コツボ……………

第十一 ◎各生れ日の運勢……………五六

(イ)一日生れ……………五六

(ロ)二日生れ……………五六

(ハ)三日生れ……………五六

(ニ)四日生れ……………五六

(ホ)五日生れ……………五七

(ヘ)六日生れ……………五七

(ト)七日生れ……………五七

(チ)八日生れ……………五七

(リ)九日生れ……………五八

(ヌ)十日生れ……………五八

(ル)十一日生れ	五八
(ヲ)十二日生れ	五八
(ワ)十三日生れ	五九
(カ)十四日生れ	五九
(ヨ)十五日生れ	五九
(タ)十六日生れ	五九
(レ)十七日生れ	六〇
(ソ)十八日生れ	六〇
(ツ)十九日生れ	六〇
(ネ)二十日生れ	六〇
(ナ)二十一日生れ	六〇

目次

八

第十二

◎吉運と凶運

(ラ)二十二日生れ	六一
(ム)二十三日生れ	六一
(ウ)二十四日生れ	六一
(キ)二十五日生れ	六一
(ノ)二十六日生れ	六二
(オ)二十七日生れ	六二
(ク)二十八日生れ	六二
(ヤ)二十九日生れ	六三
(マ)三十日生れ	六三
(ケ)三十一日生れ	六三
◎吉運と凶運	六四

目次

九

- ◎歳徳神と八將軍……………六四
- ◎占ひの方法……………六九
- ◎占ひの題目……………七〇
- ◎呪文及び降神術……………七一
- ◎符號表……………七二
- ◎地雷復 第一番……………七三
- ◎地澤臨 第二番……………七三
- ◎地天泰 第三番……………七四
- ◎雷天大壯 第四番……………七五
- ◎澤天決 第五番……………七七
- ◎乾爲天 第六番……………七六

- ◎天風姤 第七番……………七九
- ◎天山遯 第八番……………八〇
- ◎天地否 第九番……………八一
- ◎風地觀 第十番……………八二
- ◎山地剝 第十一番……………八三
- ◎坤爲地 第十二番……………八四
- ◎吉凶夢判斷……………八六
- (イ)開運する夢と就職の叶ふ夢……………八六
- (ロ)財寶の集る夢と損失を招く夢……………八八
- (ハ)成功する夢と失敗する夢……………九〇

(ニ)願望の成ると成らざる夢	101
(ホ)友を得る夢と争論起る夢	103
(ヘ)歡び事と悲みの起る夢	104
(ト)戀愛成就し縁談整ふ夢	105
(チ)妊娠する夢と出産する夢	107
(リ)長壽の夢と病氣治る夢	108
(ヌ)會合の夢と離別の夢	109
(ル)旅立又は家出する夢	109
(ヲ)待人來り音信來る夢	101
x	x
x	x
x	x
x	x
x	x

●禁厭のはしがき	101
●呪ひの秘法	101
●蟲獸退治の秘法	103
(一)鼠退治のまじなひ	103
(二)土鼠の退治の秘法	103
(三)蛞蝓の退治の秘法	103
(四)蛇よけの禁厭	103
(五)小猫の鳴くを留る法	103
(六)蛙の鳴音を留る法	103
(七)頭の虱を去る法	103
(八)毛虱退治の秘法	103

(九)蚊軍退治の奇法	115
(十)蠅を去る法	115
(十一)蠅よけの禁厭	116
(十二)白蟻退治の奇法	116
(十三)砂糖に蟻のつくを防ぐ法	116
(十四)油蟲を去る法	117
◎飲食物に関する秘法	117
(一)飯の片熟したのを直す法	117
(二)餅のかびを防ぐ法	117
(三)味噌の損じたるを直す法	117
(四)味噌醜を去る法	118

(五)夏月酒の味變らぬ法	118
(六)井水の濁るを清す法	119
(七)鶏卵の善惡を知る法	119
(八)暑中食物を貯ふる法	119
(九)鹽魚の鹽氣を去る法	119
(十)鯀子を急に柔にする法	119
(十一)小鮎の鱗を取る法	119
(十二)松茸の貯藏法	119
◎器物に関する秘法	119
(一)漆で書く奇法	119
(二)黒ぬきの法	119

(三)破目の見えぬ様につぐ法……………一二二

(四)書畫に時代を附ける法……………一二二

(五)青竹を白くする法……………一二一

(六)夏月糊に蟲のわかぬ法……………一二二

(七)活花を早く咲かす法……………一二三

(八)松の枯るゝを活かす法……………一二三

●諸病の秘法……………一二二

(一)安産のまじなひ……………一二三

(二)難産を安産さする法……………一二三

(三)乳の出る法……………一二三

(四)乳の腫物を治する法……………一二三

(五)小兒の夜啼を止むる法……………一二四

(六)小兒の陰莖の腫れた時……………一二四

(七)白髪を黒くする法……………一二五

(八)面皰を治す法……………一二五

(九)鮫股をなほす法……………一二五

(十)汗臭きを去る匂袋の法……………一二五

(十一)漆まけを治する法……………一二五

(十二)聲がれを治する法……………一二六

(十三)痰を治する奇法……………一二六

(十四)肺病を治する妙法……………一二六

(十五)中風必治の妙薬……………一二六

(十六) 諸毒下の妙法 一二七

(十七) 船に酔はざる法 一二七

(十八) 嚴冬手足の凍えぬ法 一二七

●靈呪秘法 一二八

(一) 諸願成就の呪 一二九

(二) 一生金錢に不自由なき呪 一二九

(三) 衣服の殖ゑるまじなひ 一二九

(四) 嫉妬心去る呪 一三〇

(五) 女の縁を切るまじなひ 一三〇

(六) 男の縁を切るまじなひ 一三〇

(七) 男女思ふ情を通ずるまじなひ 一三一

(八) 咳嗽を止めるまじなひ 一三三

(九) 鼻血を止めるまじなひ 一三三

(十) 眠れるまじなひ 一三三

(十一) 酒嫌ひにする呪 一三三

(十二) 寝小便を癒すまじなひ 一三三

(十三) 流行病に罹らぬまじなひ 一三三

(十四) 腫物の口をあけるまじなひ 一三三

(十五) 顔の腫物を治するまじなひ 一三四

(十六) 凶方よけのまじなひ 一三四

(十七) 諸病の平癒を願ふまじなひ 一三五

(十八) 火傷のまじなひ 一三六

(十九) 盜難を的確に顯はすまじなひ…………… 116

(二十) 眼病のまじなひ…………… 116

(二十一) 小兒蟲封じのまじなひ…………… 116

(二十二) 金山彦神傳治病のまじなひ…………… 110

(二十三) 火難盜難を覺るまじなひ…………… 110

(二十四) 神傳安産のまじなひ…………… 111

(二十五) 龍宮神傳水難よけのまじなひ…………… 111

(二十六) 諏訪神傳如意のまじなひ…………… 111

(二十七) 稻荷神傳疼痛止めまじなひ…………… 113

(二十八) 稻荷おろしのまじなひ…………… 114

(二十九) 荒神よけのまじなひ…………… 115

目次 (終)

(三十) 痘瘡麻疹等の惡病神を除く呪…………… 115

(附録) ●元三大師御籤判斷…………… 117

第一番より第百番まで……………

運命判断 占とまじないの秘法

東京 如舟堂 主人 著

第一 ◎人間の目的と運命

運命判断の秘法

人間の目的は、殆んど千差萬別であります。若し時代充分に働いた揚句は、安樂に愉快に、晩年を送りたいと云ふのに一致するやうであります。そこで人は皆、二六時中營々切々と活動を續けて居るのであります。然るに廣い世間を見渡しますると比較的功成者は少く、失敗者が多い爲めに少しく經濟上の變動があらば、夥しく失業者が殖えて、飢に叫び寒に泣き、聽ては其思想上にも影響して、社會を呪ひ富豪を嫉み、あられもない惡計畫を運らして、遂に其筋の手を煩はすに至る

人間の目的と運命

法秘のいなじまと占断判命運

者が、近來追々増加するの傾きがありますのは、實に慨かましい事ではありませんか
 成程今日の社會制度も、決して完全なものではありません。又富豪の横暴も決して衰
 めたものではありません。然し之れはいつ何れの時代にも免れない事で、強ちに現代
 ばかりぢやないのであります。
 一體人間と云ふものは、兎角已惚れの強い者で、甘く自分の事業が、とん／＼拍子
 に行けば、神も絲瓜もあつたものかと、豪い權幕を現はすものであります。少しく
 左前になつて来れば、失望落膽、衰運を挽回するの勇氣も失せて、あたり一生を不平
 不満で送る者が多いやうであります。之れと云ふのは畢竟するに其出發點を過つた結
 果であります。出發點と云ふのは、運命の判断||碎いて申さば、事業の適否、進退の
 時期を閑却したのでありますから、言はゞ身から出た錆で、誰を恨みやうもないので
 あります。

●人間の運命

法秘のいなじまと占断判命運

そも／＼人間の運命と云ふものは、恰も地球の循環するやうなもので、常に循環
 環つて止まないものでありますから、少しく油断をすれば、折角循環り來つた幸運も、
 終にアバよと逃げて仕舞ふものであります。されば其幸運を永遠に維ぎ留むるも、衰
 運を再び盛運に轉ずるも、自分の心一つであります。少し成功したからと言つて
 も決して、増長する事も出来なければ、又失敗したとて毫も落膽するにも及びませ
 其成敗の由て起る所を自覺すれば、何も喜憂を須るの必要はないのであります。斯
 く申せば運命を左右する事は、甚だ容易のやうであります。其實は却々不容易なも
 のであります。さればどうすればよいかと云ふ事になります。それはそれ古來聖賢
 の教を貽されました。占ひ禁厭に、頼るより外に道はないのであります。そこで私
 多年自分で體驗致しました。摩訶不思議の靈驗神驗を、誰れにも判るやうに述べま
 て轉ばぬ先の杖に、敢て本著を公にする次第であります。

第二 (イ)うらなひと禁厭

うらなひと禁厭

占とは一體どんなものか、禁厭とは又どんなものか、これは一ト通り説いて置く必要があらうと思ひます。占の字は、トと口とを重ねたもので、昔、支那では龜の甲羅をやいて其裂け目の現象如何によつて、吉凶禍福をうらなひ、それを口で述べます處から、占即ちうらなひと云ふ字が生れた所以であります、「詩經」と云ふ書物に「トを考へ維れ王、是の鎬京に宅り、維れ龜之れを正す」とあるのに見ましても、天下の大事も小事も、龜トによつて決定した事が判ります。

第二(口)伏羲氏の易

然るに段々時代を経るに従つて、伏羲氏の發明に係る易が、専ら盛んに行はれるやうになつたのであります。此處でちよつと、伏羲氏が易理を發見致しました次第を述べて見ませう。伏羲氏は殆んど神格を備へて居つた人で、常に上を仰向いては、天の現象を眺め、下を伏向いては、地の文象を觀て居ましたが、一旦神明の威靈に感應致しましてから、すつかり萬物の情を悟りまして、而して八卦を創造致したのであります。

す。さて此易に陽爻を九と申し、陰爻を六と申します。九とは一三五の奇數を合せた名で、天數を參として、其陽數を合せるので九となり、六とは二四の兩偶數を合せたもの、名で、即ち陰數を代表するが、而も是れは數であつて數でなく、字であつて字でなく、書であつて書でありません。符牒のやうでも符牒ではありません。要するに九とは陽爻の名で、六とは陰爻の名と心得て居ればよいのであります。以上述べました八卦によつて、天地間あるとあらゆる事物を、陰と陽とに配當して、人事萬般の事柄をうらなふのであります。さて易の字をわけて見ますと、日と月とであります。日は陽で月は陰である。後に述べます九星や陶宮などは、皆此易理や龜トの方法などを、ゴツチャに捏ね廻して、練り上げた處の占術であります。九星陶宮は暫く措き、易の判断法を申しますれば、頗る簡明なもので、一つは自然に現はれた現象を觀察玩美してうらなふと、又一つは何か自身で思ふ事や、行りたい事がある場合に、其事が可か、不可か、達するか達せぬかをうらなふのであります。之れを判じますに

一錢銅貨と骰子 九星及其稱呼

は後世用ひまする五十本の筮竹を取つて、パチ／＼やる手数も要しません。従つて本筮とか略筮とかの七面倒な名稱を付して、勿體附ける事もありません。そんな簡明な占法を、後の世の學者が、得手勝手に屁理窟を付けて仕舞ました爲めに、却て伏羲氏の本意を失ふやうになつたのであります。そこで本著は最古の方法に倣つて、筮竹などは一切用ひませずに、行ひます。

第二 (ハ) 一錢銅貨と骰子

先づ一錢銅貨か骰子を投げて、陰が幾つ現はれるか、陽が幾つ出るか、其現はれた六つの數を、上下合せて、占法の部に掲げてあります。第何番かの卦名に照して、吉凶禍福を審かにすると同時に、自身現在の境遇に思ひ及ぼして判断すればよいのであります。

第三 (イ) 九星及び其稱呼

占の字義や、易の意義は、前に述べました通りであります。之れから少しく九星の事に説き及すことに致しませう。九星家が勿體振つて説き立てます。河圖洛書の講釋は抜きに致しまして、其づ其稱呼方から申し上げます。九星は、一數を坎め一白星、二數を坤の二黒星、三數を震の三碧星、四數を巽の四綠星、五數を五黄中央星、六數を乾の六白星、七數を兌の七赤星、八數を艮の八白星、九數を離の九紫星と唱へる、之れを圖解すれば、左の如くであります。

(ロ) 五黄 中宮

圖に示すが如く、五黄星は中央宮にゐて、八方に八星の居宮がある。其位置が即ち九星術の基礎で、方位なども無論此位置から割出すものであります。

(ハ) 暗 劍 殺

方位に暗劍殺 (一白星が輪行して、中央主星の本位である時をいふ) と稱するものは此位置を指していふのであります。ですから五黄中央年に遇へば、八方暗劍殺と稱する。例へば二黒中央年は、未申坤の方が居宮であるから、坤方を二黒の暗劍殺

五黄 中宮 暗劍殺

五黃中宮圖



暗劍殺

と稱します。一白中宮年は、北方の子の方を以て居宮するのであるから、北方を一白年の暗劍殺と云ふのであります。其餘の星も之れに準じて御承知になるがよい。

此八方の星が毎年交替して、中宮に入ります其の中宮星が歳の豊凶を司どりまするが故に、九星運行のくりやうを心得れば、天變地殃の来る輕重も亦毎月毎日、天氣の晴雨及び變化も知ることが出来るやうになります。稍事が面倒のや

うであります、高が知れた九つの數でありますから、何も臆劫に思ふ程でもありません。

第四 (イ) 陰陽五行

すでに(一)(二)(三)に於て、龜卜、易、九星の一端を述べましたから、九星に最も關係の深い陰陽五行の相生相尅の活動を説く事に致します。五行と言へば、水、木、火、金、土の五つであることは、誰もよく知つて居る所であります。此五行が相生相尅して、活動轉化の妙を現はす狀を、易經に述べてありますから、之れを和譯して、御參考に供する事に致します。

「天地位を定め、山澤氣を通じ、雷風相薄り、水火相射はす、八卦相錯る」また、「雷以て之れを動かし、風以て之れを散じ、雨以て之れを潤ほし、日以て之れを烜し、艮以て之れを止め、兌以て之れを説ばす、乾以て之れを君とし、坤以て之れを藏くす」以上の意味を平俗的に説きますれば、こうであります。天地が四時寒暖の序を爲すの

陰陽五行

は、皆此五行の活動の爲めで、雷が發して陽氣を動し、風が暑熱を拂ひ、雨が草木其他の生物を潤はし、日が萬物をかはかし、土が之れを受け止めて萬物を養ふのであつて、人は又水火の効によつて生活するのであります。

(○)五行と萬物の關係

斯くの如く天地間の森羅萬象は一として、五行に關係せないものはありません。其證據として左に漢の京房の説明を掲げませう。

- 五行 木 火 土 金 水
- 五方 東 南 中央 西 北
- 五色 青 赤 黄 白 黒
- 五聲 角 徵 宮 商 羽
- 五味 酸 苦 甘 辛 鹹
- 五臭 膻 焦 香 腥 腐

- 五時 春 夏 土用 秋 冬
- 五事 視 言 思 聰 貌
- 五德 明 從 容 聰 恭
- 五微 煥 腸 風 寒 雨
- 五嚴 泰 衡 嵩 華 恒
- 五星 歲星 熒惑 鎮星 太白 辰星
- 五天帝 書帝 赤帝 黃帝 白帝 黒帝
- 五人帝 大皞 炎帝 黃帝 少皞 顓頊
- 五官神 苟芒 祝融 后上 蓐收 玄冥
- 五社 戶 竈 中雷 門 行
- 五臟 脾 肺 心 肝 腎
- 五常 仁 義 禮 智 信

相生相尅

一一

●五 蟲 鱗 羽 羸 毛 介
 ●五 數 八 七 五 九 六
 之れに徴して見ても、五行が如何に萬物に關係するかは、お判りであらうと思ひます。

第五 ●相生相尅

五行説は大略前記の通りであります、更らに五行の相生相尅のお話に移ります。
 五行交互の關係は上のものは直下のものを生じ、一つおきに下のものを減ずる作用があります。即ち木は火を生じ、火は土を生じ、土は金を生じ、金は水を生じ、水は又木を生ずる、これが五行の相生と云ふのであります。それから木は土を尅し、火は金を尅し、土は水を尅し、金は木を尅し、水は火を尅する。之れが五行の相尅でつまり水火金木土の循環であります。九星の一白は水、二黒五黄八白は土、三碧四緑は木、六白七赤は金、九紫は火と稱呼するものも、全く五行の相生相尅から考へ付いたもの

であります。相生とはあひ生ずるの義で、相尅は相かつの意。

第六 ●陶宮術と十二宮

五行説は前述の説明で、お判りになつたらうと思ひますから、序に陶宮術を少しく語る事に致します。陶宮術では、十二支を十二宮と云つて、凡て人は生れるの時の年月日によつて、その十二宮のいづれかの性質を受けるものだと云ふのであります。十二宮と申しますのは、滋 結 演 豊 奮 止 合 老 緩 墮 練 實 であつて、これが夫々十二支の子 丑 寅 卯 辰 巳 午 未 申 酉 戌 亥に相當するのであります、人の性質は必ず三輪できまる、三輪と云ふのは、人の生れた年月日に、夫々大輪、中輪、小輪、と名づけたもので、その各の相當する十二宮によつて、三種の性質、容貌等が定まるのであります、さて其十二宮の性質は、如何なるものであるかと云へば左の如くである。

●滋宮 貯金心深く、義理人情に乏しく、卑劣で元氣がなく、外面は柔和である

陶宮術と十二宮

一三

●結宮

が、内心は怒氣を含む。(子の性質)
忍耐心強くて、淳朴で而も勤勉であつて一藝に達する、約束を重んじ信義あり、執着心が深い、表面は柔和であるが、内心は剛情で、決断力に乏しく敏達でない。(丑の性質)

●演宮

果敢であつて決断力が強い、潔白、才智、禮儀、義侠心がある、人の下に立つを好まず、人と衝突し易い、競争心が強い爲めに、却つて、失敗することがある。(寅の性質)

●豊宮

柔順温和であつてよく人を容れる、交際が圓滿で人に愛敬せられる、不活潑で心氣放漫になり易い、安逸を貪り怠惰である。(卯の性質)

●奮宮

豪爽であつて恐怖心がなく、競争心が強い、學術技藝に長じ義侠心があり客にはいかめしく、人を屈伏させ、傲慢で自尊心が強く、人を侮り、人と争ふから人と融和することが困難である。(辰の性質)

●止宮

柔和にして忍耐心が強く注意は周到で、而も思想は堅固である、技藝に上達し、諸事に成功する、臨機應變に巧みで規律が立つてゐて人に尊敬せられる、然し嫉妬心強く他人に對してはよくない。(巳の性質)

●合宮

快活であつて決断力が強い、人を容れるの度量がある、人との交際は宜しく人と争はない、滑稽洒落であつて人に愛せられる、されど、其缺點は輕躁で、勉強心に乏しく感性的で、倦き易く事を成し遂げない。(午の性質)

●老宮

柔順で敦厚で而も熱心である、同情友誼の念が厚い、怯懦になり易く、進取の氣象に乏しい、閑静が好きでしばしば移轉する、(未の性質)

●緩宮

機敏で進取的であるが心が始終動き易い、狡猾で嘘をつく、利己的で人に盡くすと思はせて、自分を利せんとする、摸倣が甘くて、才智がある。(申の性質)

●隨宮

豁達で器用で而も辯舌が達者である、小事に拘泥せず、好き好んで困難な事に當るが、才にまかせて大事業を企て、遂に身を破ることがある、高慢で人を欺き實意がない。(酉の性質)

●煉宮

剛毅にして正義を守り、事物に達中し、目的を遂げやうと努めるが、却て人に厭はれる、不平不満の意が多く、怒り易い、争論が絶えず、交際が圓滿に行かない。(戌の性質)

●實宮

勤儉貯蓄の念が深いけれども、卒直果斷で熟慮を缺き、無頓着で事を行ふ爲めに人と衝突し易い。(亥の性質)

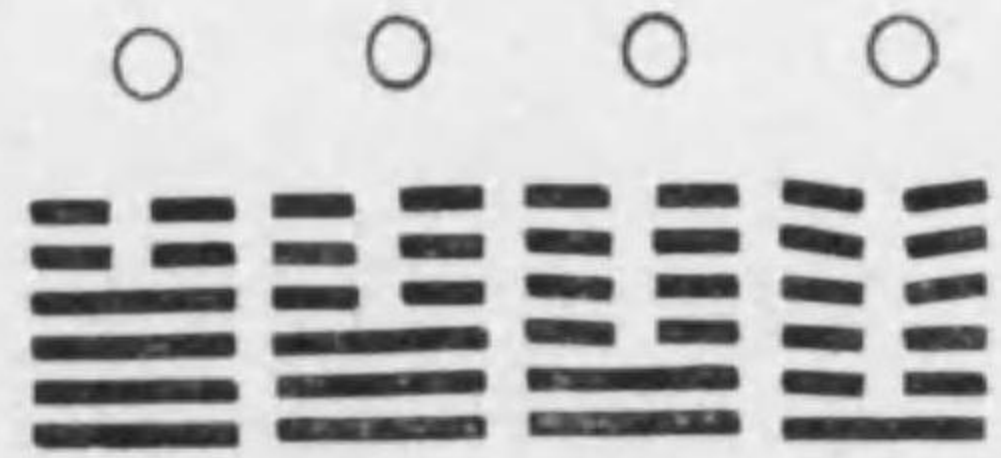
斯くの如く人間は何れかの性質を有するものであります、この先天的の性質を三輪と容貌によつて判じ、それを陶冶せよと訓へるのが陶官術の極意でありますから、占術としても大に信ずべきものであります、修養術としても亦頗る歓迎すべきものであります。

第七 ●十二支と卦象

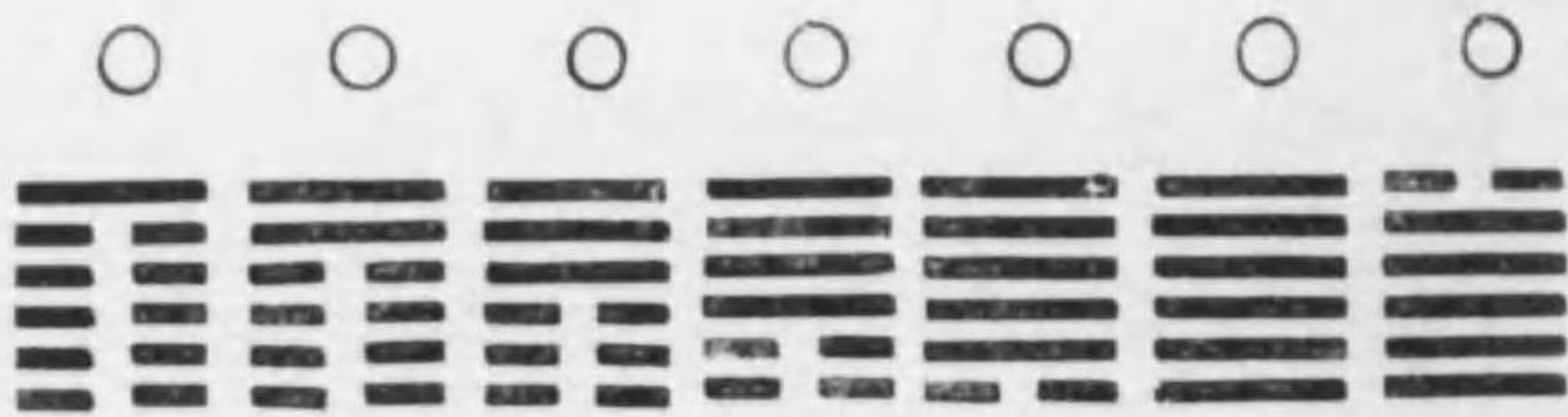
十二支と卦象は、本著の眼目とする所でありますから、之れを最も判り易く述べませう、かう申しましては聊か手前味噌に傾くやうであります、坊間行はるゝ易書は往々文字が生硬であるし、且つは其説明の仕方が甚だへんでこでありますから、折角易道に興味を有せらるゝ方も、判らず仕舞になる事が多いやうであります、よつて著者は自己一流の様式を以て説明を加へて見ませう、之れならば誰方でも、文字の讀める人であつたならば、屹度御了解なさるものと信じます。

十二支と六爻卦とを結びつけて、それを卦象で表はすには、どうしてあるかといふと、乾および坤を上下卦とするのも三つ宛、都合十二卦を取り出すので、即ち陰が極まつて、坤となればこゝに陽の爻が表はれて來ます、すべて卦は下より上にのぼるものでありますから、初爻は陽が萌して、地雷復の卦となります、即ち之れが一陽來復である、ついで、尙ほ陽爻は増長して、地澤臨となり、次第に陽爻は生長して、遂

に陽極つて乾となるのであります、物は窮まれば變ぜねばならない、こゝに初爻に陰爻を生じ、天風姤となり、かくして陰は漸次に増して、陰が極まつて坤となります、これを順序に十二支にあてはめるのである、占ふ時に筮竹を用ひず、一錢銅貨が骰子の、表裏を示すによつて、判斷する仕組みに致すのでありますから、一番二番の番號を符牒と致します、うらなふ方法は後に委しく説明を加へませう。



子 地雷復 (第一番)
 丑 地澤臨 (第二番)
 寅 地天泰 (第三番)
 卯 雷天大壯 (第四番)



辰 澤天快 (第五番)
 巳 乾为天 (第六番)
 午 天風姤 (第七番)
 未 天山遯 (第八番)
 申 天地否 (第九番)
 酉 風地觀 (第十番)
 戌 山地剝 (第十一番)

○ 坤為地 (第十二番) 第八 (イ) 方位

方位の事も述べる必要がありませう。昔も今も結婚、新築、移轉、旅立、病氣、と何か起るとすぐ方位を観るものであります。暗剣殺を犯せば飛んだ災難を受ける實例は幾らもありませう、そこで凶いといふ方位は成るべく避けて、吉いと云ふ方位に向つて、すべてを進めれば、心に不安もなく、脚躡することもなく、事をなすことが出来ますから、この方位は決して無視するわけには参りませぬ。

(ロ) 天盤と地盤

此方位を観るには、どういふ風にするかと申しますと、天盤と云ふものを用ひます。この天盤は、九星と易の八卦、十二支を附け加へて、方位を定めるもので、其中央を中宮といつて、毎年代るく九星の一つが、こゝに入ることになつて居ります。この中宮に入つた星を其年の本命星と云つて、その年の心になるのであります。各星がこ

の中宮に入ると、一般の九星方位観は、八方塞がりといつてその星の人はどの方向も凶いと云つて居りますが、方位は年齢によつて観る方が確かでありませうから、一概に本命年の人すべてが、八方塞りであるとは申されません。さて方位を定めるには、どこに磁石を置いたらよいかと申しますと、主人の寝間の中央に磁石を置いて方位を定め、そして自分の吉方、凶方を観るべきであると思ひます。何故かと申しますと、家の中心と云ふよりも、主人の寝間の方が、其人の生活に密接な関係があるので、此寝間の中央から方位を定むべきであります。一家族が一緒に旅行するやうな場合でも、主人の方位がよければよいので、他の従たるべき地位にある家族の方位は、主人の方位に従へばよいのであります。従つて女が戸主で一家の心たる場合には、女の方位によつて吉凶を観ればよいのであります。鬼門、裏鬼門は凶方として誰れにも恐がられて居りますが、この方位は何れも清潔にして置けば、祟りはありません。前に申しました天盤とか地盤とか云ふものは、どんなものかと云へば、天盤も地盤

も、いづれも二つの九星圖であつて、前者は年の盤と日の盤（即ち其年の九星と、其日の九星が中宮にある二つの圖をいふのである）を上下に重ねて置き、後者は月の盤と時の盤とを上下に重ね、天地の兩盤を左右に置き並べ、第一其人の本命星の位置を探し、それが上下の兩盤で何の星にかゝるかを見て、其相生相剋を知り、それが何事を意味するかは、本命の座する宮によつて定め、吉凶を占ふのであります。例へば、一白の人が、二黒の年三碧の月四緑の日五黄の時に、身の上の鑑定を試むるとすれば次の圖を判じて占ふ事でありませす。

天年
の
盤

一	六	八
九	二	四
五	七	三

日
の
盤

三	八	一
二	四	六
七	九	五

年の盤の一は、日の盤の三の上にあるその位置は巽であるから、本命巽宮にゐて三碧かゝる、日の盤の一は、坤にゐて年の盤では、八があるから本命坤宮にゐて八白かゝる。地盤では本命坎宮に八白かゝり、又本命震宮にゐて三碧かゝる（かゝるは重なる意）これを占ふには、所謂九星の秘傳で、本命坤宮にゐるから病難又は口説、しかも八白かゝるから思ふ事間違ひ易く何事も面白くない。五行相剋の理によつて、一白は水八白は土、土と水は相剋するから急病人がある。本命巽宮にあるのは、縁談又は營業上の事で、三碧かゝるのは、家をあけて旅行するの兆である。本命坎宮にゐて、八白

地月
の
盤

二	七	九
一	三	五
六	八	四

時
の
盤

四	九	二
三	五	七
八	一	六

かゝるのは病人で心配事がある。本命震宮にゐて三碧かゝるのは、職業上について氣迷ひがあつて奔走することになる。

(ハ)家運の開ける家相

終りに方位の實際問題を述べて見ませう。家運の開ける家相はどんなものであるかと言へば、東の方が強く張出した家は凶相であります。約一間位も程よく東の方に張り出して居り、南の方に六疊、四疊半、八疊、十疊等の室のある家はよい家相であります。然し六疊が二つ並ぶのは凶相で、半端であるが九疊の室でもよいのです。それに戌亥の方に適宜に出張つたのもよい、尙ほ門や臺所、便所の位置が前述のやうな方角に置かれた家は、家運の開ける家相でありまして、今までさつぱり家運の振はな一家が、かういふ家に入れば、次第に運が開けて来て、隆盛となります。實際上から言つても斯る家相の家は、明るく快よく住心地がよいのであります。また家全體の形としては戌亥に高く辰巳に低い家でなければなりませんし、戌亥が張れば辰巳も程

よく張つた方がよいですが、二階や倉を建てる場合には、戌亥の方に二階や倉を造るやうにし、辰巳の方に低い平家か納屋などをつけるやうにします。戌亥は方位上から申しますと、金氣の集る所と云つて居る位であります。實際上から云つても、此方角の室が高くなつて居りますと、光線を充分に取り入れる事が出来、従つて陽氣であり大に活動することが出来ると云ふことになりす。

(ニ)家運の傾く家相

然らば家運の傾く家相はどうかと云へば、如何に主人が努力しても、家業が一向振はずいつの間にか家運の傾いて行く家があり、又は主人が事業に失敗して一家が零落して仕舞ふ家があり、又働き盛りの主人が早死して、段々衰微して行く家があります。此等は皆家運の傾く家相の家に違ひないのであります。家運の傾く家相にも、色々あります。殊に丑寅、辰巳、戌亥、の缺込んだ家は、どんな人が這入つても、決して、家業が繁昌するものではありません。戌亥の缺込んだ家は、家業が衰微するか、或は

困窮を意味するの家相です。これは實際から言つても、家は多く南向に建てるものですが、さういふ向きの家で戌亥の方が欠込み、東南の方に張出して居ると、此家は無暗に明るく、人の心はうかつき派手に流れ、儉約などもしないやうになります。他は易の理から考へられて居るのであります。丑寅の欠込んだ家は、事業が蹉跌するか、若くは主人が早死する家相です。これは丑寅は謂ゆる鬼門の方で、萬物の發生する方角であり、萬物の發生は一家にすれば物質の發生であります。その方が缺けてゐるのは、物質の缺乏と、物質の發生者たる主人の缺如を意味するのであります。辰巳の、欠込んだ家は、主人の早死と、家督のなくなる家相です。即ち辰巳は、萬物が此處に漸く發芽し始める處で、此點が缺けて居るのは、主人や家督の缺けることを暗示するのであります。

東の方が欠け込んだ家は、家の後繼者のない家相です。これは東方は天體運行の始りでありますから、此處の缺けてゐるのは、一家の運行者に、後なきことを暗示する

ものであります。東の方が張り西の方が凹んでゐる家は、家の後繼者が家に落着かず家出する家相です。これ西は即ち萬物の收まる場所でありますのに、此方位が缺けてゐるのは、過不及宜しきを得ない暗示であります。

(ホ)病人の出来る家相

次ぎに病人の出来る家相は、鬼門の方に、井戸、臺所、便所、等があり、戌亥の方に欠け込みが強くなり、東側に六疊の室のある家は病人が絶えない家です。一人がやつと快くなつたと思ふと、他の人がすぐ病氣になるといふ風で、いつも床を上げることが出来ず、一家から晴れやかな笑ひ聲の洩れることがないと云ふ氣の毒な家であります。病相の家は此他にもあります。主婦や後嗣娘などが、始終病身である家などは、南方に欠込みの強い凹字形になつた家であります。また家の眞南に泉水のある家も、病人が絶えず、殊に婦人子供がよく、病氣に罹るものです。何故泉水が悪いかは日本の造園法を見れば解りますが、公園や別荘等ならよいですが、住宅の前に、溜り

水などを置く事はよくないのであります、同様に北の缺込みも、病人の絶えない家です、丈夫な主人が永く患つて死し、その後も主婦が一人娘とかど、代るく病氣になるといふ病相の家です。

第九 (イ) 人生最大問題

本段には人生の最大問題である結婚、即ち男女相性の事を述べる事に致します。

(ロ) 男女の相性

男女相性を観る最も確實な方法は、どうすればよいかと申しますれば、人が胎内に宿つてから出るまでの期間を數で割出し、その期間が何の干支に當るかを調べて、其の相生するものが最もよい男女の相性なのであります、此……人が胎内にある期間を調べる方法は、胎測法と云つて、古くから支那で運勢を觀る方法として、行はれてゐるものであります、相性を觀る一番確實なものでそれは、双方の生年月日によつて觀るのであります。

幸福は結婚生活をするためには、第一に年廻りに注意せねばなりません、年廻りの悪い年に、結婚いたしますと、どんなにお互に注意し、努力しましても、いつしか、相反するやうになるものであります、それに其人の持つ天分といふものも、大に關係するものであります、よい天分即ち良人運、妻運のよい人なら、自然によい良人や貞淑な妻を授かるもので、天分の薄い人ならば、どんなに選りに選つても迎へた妻なり、嫁いだ良人であつても、其結果はいつも不縁で、何度もく夫婦別れをして、良人運、妻運のないのを啣つといふことになるのであります、而して極く悪い天分を持合せた人でなければ、相性さへよかつたなら、幸福に夫婦生活を完ふすることが出来るものであります。

(ハ) 年廻りの良否

年廻りの良否は、その人の生れた十干の陰(乙、丁、己、辛、癸)及び、陽(甲、丙、戊、庚)により、統計の結果割出したものであります、十干の陽に生れ

男女の相性を観る確實な方法

たものを次表の如く甲型とし、陰に生れた人を乙型とし、甲型の女が結婚してよい年廻りは、十七歳、十八歳、二十歳、二十一歳といふ風に、男女の結婚してよい年廻り即ち結婚年齢は次の如くであります。

(一) 甲型の人(陽の干に生れた人)

男	25	26	35	36	45	46	55	56	65	66
女	17	18	20	21	23	27	30	31	33	37
									38	40

(二) 乙型の人(陰の干に生れた人)

男	24	25	34	35	44	45	54	55	64	60
女	16	17	20	21	23	26	27	28	30	31
									33	36
									37	38
									40	41

(三) 男女の相性を観る確實な方法

男女の相性を観る最も確實な方法は、前に述べました如くに、生れた年月日の十干十二支によつて観るのが一番よいのであります。干支によらずに簡単に相性を知る

法は、單に年齢の差によつて観るのであります。十干の中には、その性質が相合ふもの、即ち相生するものと、相合はぬもの、即ち相剋するものとがあります。此相生する年齢の差は、如何なる數であるかを観てみますと。

11 16 17 19

と云ふ數字であります。即ち自分の數へ年より四つ、六つ、七つ、九つ、……違ひ

の人が互に相生するものでありますから、右のやうな年齢の差の人と結婚するのが、相性の夫婦なのであります。殊に七つ違ひ、四つ違ひがよいのであります。然し此場合も前の年廻りのよい年齢に結婚するやうにせねばなりません。

又相性を簡単に知るには、前の年齢の差で観れば判りますが、尙ほ委しく観る、爲めには十干の配合によらねばなりません。即ち相生する干は、陰と陽、陽と陰、其の組合せであります。次の表は互に相生するやうに、陰陽が組合せてありますから、

男女の相性を見る確實なる方法

其の表の如く、男女が結婚するときは、誠に相性のよい夫婦であります、例へば第一表の如く男が甲、または乙、生れならば、女は戊、または己、生れの者が相性がよく此反對に男が戊、または己、生れならば女は甲、または乙、生れの者が相性がよいのであります、又第二表の如くに、女が甲、または乙、生れならば、男は庚、または辛、生れの人が相性がよく、これと反對に庚辛生れの女は、甲乙生れの男と相性といふことにもなります。

表一第

甲乙生れの男は || 戊己生れの女
 丙丁生れの男は || 庚辛生れの女
 己戊生れの男は || 壬癸生れの女
 庚辛生れの男は || 甲乙生れの女
 壬癸生れの男は || 丙丁生れの女

表二第

甲乙生れの女は || 庚辛生れの男
 丙丁生れの女は || 壬癸生れの男
 戊己生れの女は || 甲乙生れの男
 庚辛生れの女は || 丙丁生れの男
 壬癸生れの女は || 戊己生れの男

前述の如く右第一表、第二表との、男女の干が反對になつても相性であります、又、相性のよいのは、以上二表の十干の組合せ以外に次ぎのやうな二つの例外があります

(別一) 夫婦の干が揃ふとき

(別二) 夫婦の干が相生する時

即ち(一)は甲と乙、丙と丁、戊と己、庚と辛、壬と癸といふやうに、夫婦の生れた年の干が揃ふときであり、また(二)は夫婦の生れた年の干が相生する場合であります、即ち木生火、火生土、土生金、水生木の場合であつて、木星の人は火星の人がよく、火星の人は土星の人と相性であるといふ五行相生大吉の法から來るもので

男女の相性を見る確實なる方法

あります、この相生する場合は、必ず四つ違ひとなるのであつて、前に述べた七つ違ひが一番よく、この四つ違ひがその次に位するものであります。之れより更に生れ月日で相性を知る法を述べませう、よく丙午の女は、良人を殺すと云ふことが一般に言はれて居りますが、之れは全くの迷信に過ぎませぬ、丙午の午は、十二支の子から數へて七つ目に當ります、この七つ目は前述の七つ違ひとは異つて、十二支の判断法による七つ目で、それには非常によい意味もあるが、悪い意味に當てはめて、かくは言ひふらされたものであります、然し生れた年月に、よい星があれば、たとひ丙午の生れのもので、立派な婦徳を備へた妻として圓滿な家庭生活をすることが出来るのであります、これと反對に、生れた年月日の星に悪い星があれば丙午生れの人でなくとも、良人縁、子供縁がなくて、何度結婚しても、不遇であつたり、子供縁がなくて、晩年を苦しむやうになるものであります、よつて本當の夫婦の相性を観るには、前述の方法以外に、更に夫婦の生年月日に、悪い星があるか無いか

をも、調べねばなりません、これを簡單に知るには、生れた年月日のうちに、辰か戌か丑の星のあるものは、多くはやもめ暮しをする寡孤性の人であります、殊に女の生れた月日に辰、戌の星があると、良人に生別するか死別するか、何度もく良人を代へるといふ風で、晩年はどうしても淋しく暮すやうになります、又辰の生れの人、男ならば妻を何度も代へるか、または妻を苦しめるといふ性質であり、女ならば嫉妬深く、喧しい人であり、よし教養ある人であつても、斯る星の下に生れたものは、どうしても嚴重なる、一夫一婦を守つて行くことが出来ず、従つて心中淋しい人であり、又生れた月日の干支を調べてみて、全部それが陽の生れであつたら、女ならば良人の縁の遠い人であり、男ならば妻をいじめめる人であり、従つて夫婦縁なく、相性は成り立ぬことになりす。

第十 ● 生れ月の運勢

男女相性の事に付ては、遺憾なく述べた積りでありすから、更に進んで生れ月日

生れ月の運勢

の吉凶を説く事に致します。

◎一月生れの人……この月に生れた者は、非常な勉強家、活動家で、堅忍不拔の精神の持主であります、そして人に頼ると云ふ事が嫌ひで、飽くまで自主獨立と云ふ風なので、一面強情我慢といふやうな誇りをも受けるのです、物事に非常に熱心で、一つの事をやり始めたら、御飯も忘れて其の事をやり遂げるといふ風です、従つて一方に偏すると云ふこともありすが、注意が綿密で、健實であり、商賣も上手です、元來蓄財の念の強い質の人が多く、此月生れる人は、實業家、商人として成功する人です、また非常に廉直の人で、仁義の念に厚く親切で忠愛の念に燃へています、その上善良な性質を恵まれて居りますから、生れながらによき指導者たるの素質を持つて居ります、此月生れの人には、春四月の受氣ですから、非常に陽気な人と、陰気な人とがあります、悲哀を感じると、もうたまたまなくなるといふやうな憾情の露骨な人もあります。

◎二月生れの人……この月生れの人には、小いながらも、何か人の上に立つ人である、婦人は愛情が深く、同情があり、決してお金なども無駄使ひすると云ふことがなく、良人が困つて居る時には、臍線金を出しても、煙草錢をやるといふ風であります、又男女共に祕密性が發達した人があります、また愚鈍でぼんやりで、何をしても埒がつかないといふ人があります、いつも社會の下積みとなつて、もがいて居る人もあり、放浪性の人もあります、運氣は五年目か十年目に變り、初年時代はよいが、中年で苦勞し、晩年は段々よくなります、男は一體に、妻が妻の家の後援を受けると云ふ運氣です。

◎二月生れの人……この月生れの人には、小いながらも、何か人の上に立つ人である

此月生れの人には、官吏、學者、實業家、商賣ならば土と金に縁のある者、例へば瓦屋、セメント屋、材木屋、金屬店、器械店等です、此月生れの傑物としては、豊臣秀吉、勝海舟、加藤高明、鎌田榮吉、三井八郎右衛門、ロイドジョージ氏等があります。

ります、性質はあつとりとして親切であります、虚言などは全く吐くことを知らな
い實意の質で、人の尊敬を受ける人です、一體に口は重い方で、軽快に、物事を話
すと云ふ事は出来ません、そして感情は非常に鋭敏で、神經過敏のものもあります
婦人は概して内氣であつとりした性質の持主であります、良人を勵まして、成功さ
せるといふ方よりも、寧ろ貞淑な妻として、良人に従つてゆくといふ風であります
また名譽心、功名心が高いがために、中には野心家となる人があり、この名譽の心
に失敗する事もあります、此月生れの人は、一般に知識的方面にぬきんでる人があ
り、又技藝を以て身を立て、成功します、また感情が鋭いので、藝術家としても名
をなす事が出来ます。

又一方何事も纏りがつかず、自分のみ守つて他人の事などは、てんで顧みないとい
ふ風の人もあり、怠慢で道徳心がなく、極度に喜怒哀樂を顔に現はして、人と圓滿
に交際の出来ない人もあります。

運氣は四年、八年毎に變り、感情が鋭いために自分で自分の運氣を破り、いつも苦
勞して居るといふやうな人もあります、三十六七歳までに苦勞し、晩年は幸福であ
りますが、また中年に成功して、晩年に凶くなる人もあります、よくなるのも、凶
くなるのも、五十歳位からです。

適業は官吏、實業家、銀行家、美術家、音楽家、技藝家、商賣ならば土か金に縁あ
るものです。

此月生れの人に、偉大な人物としては、日蓮上人、大隈重信、原敬、東郷平八郎、
濫澤榮一、ワシントン、リンカーン等があります。

◎三月生れの人……この月生れの人、二月生れの人と同じく人の上に立つ器で
あります。男女とも非常に慈悲深く、陰に廻つて徳を施すといふ風で、人を欺くと
いふやうなことはありません、寧ろ遠慮深いといふくらゐであります、従つて、
健實ではあるが強情なところもあり、また一體に多情多感の性質を持つて居りま

す。
 この月生れの人には、沈鬱な人と、はしやぐ人との二通りがあります、沈鬱な人は一般に孤立性で、自分の好きな人は非常に好きであるが、自分の嫌ひな人は、顔を見るのも厭だといふ風で、人を容れる度量がなく、人の上に立つべき器でありながら人望がなく、又遠慮し過ぎるので、進取の氣象に乏しく、事業なども、成功出来ないと云ふ事になります、此質の人は自分から苦勞を求めてゆくやうなものです。又はしやぐ方の人も、一時はパツとはしやぐやうであるが、六月の候に受氣したので、心からの陽氣な人でなく、一面孤立性のあることを、どうする事も出来ないであります、この月生れの人には、一般に涙脆く、多情多感なので、思ひつめたら一心に思ふといふ風です、戀愛などもあまり熱し過ぎるので失敗勝ちです。また一面から観ると、この月生れの人には、外面は如何にもよい人のやうに見へるが、その實内心に毒のある方があります、人を蹴落しても自分の野心を満足させやうとする

陰險な人なのです、婦人も人に愛せられる質ではあるが、何かやつてやらうと云ふ毒を持つてゐる人があります。
 運氣は四年目、八年目、に變り、四十歳前後に、運勢に變化があります、これを境としてよくなり、これまでよかつたものは、その運勢が衰へます、性質なども人が變つたやうに一變して來ます、適業は、動人、音楽家、美術家、詩人等としてよいが、理財的方面では成功出來ず、商賣人としては駄目です、この月生れの人には、藤田東湖、杉浦重剛、有島武郎、シケランジエロ等があります。
 ●四月生れの人……此月生れの人には、人物の器が大きく、グレートマン即ち大人物の型の人であります、社會に出て活躍している大人物には、この月生れの人が多いのであります。
 頭腦が明晰で、論理的であり、すべて物事を理詰めに考へねば、承知しないといふ風です、そして重厚で正直で、奮闘家で、意志が鞏固で、威望もあり、人の上に立

つ器の人であります、従つて神や佛を信じ、神信心して之れに頼らうといふやうな神秘的なところは少しもなく、世に不思議と云ふことなどは、全くないものだと思へて居ます、この月生れの人が、悪い方面に發達すると悪賢くなり、人の股を潜り抜けては人をいじめると云ふ風で、人の顔色を讀んでは、何かしてやらうと眼をギロ／＼さして、計畫をめぐらし、人を陥れるやうな事をする人があります、すべて論理的ではあるが細密的ではなく、細密なものをこつ／＼と研究すると云ふ事は出來ない質です、運氣は四年目と八年目に變り、四十時代から最も盛んになり、晩年は一般によく、大成功する人もあります、婦人は中年に良人の代る人があります、男女とも結婚では失敗する人があります、そして男女とも熱し易く、冷め易く、嫉妬心があるので、戀愛關係なども、甘くゆきませせん。

適業は實業家、政治家、教育家、宗教家、或は土木、鑛山、石や鐵を扱ふ荒つばい仕事がよく、小な仕事には不向きであります。

この月生れの人には、親鸞上人、法然上人、板垣退助、松方巖、山縣有朋、跡見花麿、頭山滿、シエークスピア、ピスマルク等があります。

◎五月生れの人……此月生れの人には、四月生れ以上に大人物の器で、才智あり、精力絶倫で、男性的であり、社會の第一線に立つて、多人數を指揮すると、いふ型の人です、總じて大さつばで、小なケチなことは出來ないので、修養のない人は、粗暴になります、婦人は意氣は強過ぎ、一體に派手で、美食を好み、孤獨性で獨立するものが多く、職業婦人として成功します。

この月生れの人には、快活で言葉がハキ／＼して氣持よく、カラ／＼と大きな聲で笑ひます、人にへつらふと云ふ事などは出來ず、自分のよいと信じた事は、どんな事にも恐れないうで進んで行くと云ふ風で、そこには一つも妥協的のところはありません、従つて強情な人もあります、又寛仁大度の心を有し、自分のふところには飛び込んで來たものは、自分が食ふなくても世話をするといふ風で、伊達衆な親分肌の

處が、多分にあります、従つてこの月生れの人味が味方になれば、力強い味方となるが、敵となれば恐ろしい敵となります。

修養のない人は、自我心が強くて、何事にも「俺が〜」を持廻し、他を見下す風がありますので、遂には社會より見放されるといふことになります。

運氣は四年八年に變り、二十歳から二十八歳位までは、親兄弟の援助を受けず、非常に苦勞しますが、段々とよくなり、四十歳から五十歳位で幸福になれます、婦人は、良人縁、子供縁が薄く、中には良人の代る人もあります。

適業は軍人、政治家、宗教家、教育家、思想家、著述家、鑛業家、等として成功出來ます、此月生れの人には、高野長英、三宅雪嶺、坪内逍遙、ダンテ、ヴィクトリア女皇、カアルマルクス等があります。

◎六月生れの人……この月生れの人には、伶俐敏捷の人が多く、又投機的で、一攫千金を夢みていると云ふ風です、そして勝負事が好きなので、折角成功しても、そ

のために又失敗して仕舞ふと云ふ風で、一生の中に満足すると云ふ事はありません、性急に事に當るのが、失敗の因となるのです、有情もあり、學問、技藝、等も相當に成し遂げることが出来るのですが、修養のない人は、計畫もなく行き當りばつたりにやるので、逆も成功は出來ません、一般に移り氣で、樂天的で、緊りがなく投げやりで、それで派手好みといふ人もあります、男女ともあまり相手に希望を持ち過ぎるので、結婚時期を遅らすやうなことにもなり、三十歳前に結婚すると、夫婦縁のないものもあります。

運氣は三年目、六年目毎に變り、三十五六歳位から相當成功の緒につき、四十二歳位で成功することができます。

適業は俳優、藝人等がよく、商賣ならば料理屋、旅館等の客商賣か、酒屋、醬油屋、油屋、等の水に縁のある商賣、勤人ならば、右のやうな水に縁のある會社に勤めるのがよいのです。

この月生れの人には弘法大師、林子平、山岡鐵舟、木戸孝允、後藤新平、グノウ、ルーソオ等があります。

◎七月生れの人……この月生れの人には、大ざつばな人ではなく、頭腦の緻密な、物事をよく考へてやるといふ性質の人で、大企業を畫策し、完成することにかけては、卓抜した才智と、非凡な能力とを恵まれて居ります。そして事業家、實業家として成功出來ます。理窟がましく、進取の氣象に富み、積極的で金をつくるに獨得の手腕があります。また親切で正直で、仁義心があり度量大きく、友情もあります。そして陽氣な極めて情熱の人であります。奥を知らない人には、往々にして冷情の人と見過られることがあります。性の何れによらず、この月生れの人には旅行好きで、晩年になつて、長途の船路をすゝめる事が屢々あります。家庭本位で、家庭圓滿、夫婦和合、子供もよくできて、將來を樂むことが出來ます。またこの月生れの人には、ぼんやりして居る者があり、ま

た好きな人は無性に好きで、いやな人は全く好かないと云ふ好悪の念が、強いので誰とも圓滿に交際することの出來ない人があります。また金錢をあまりに愛する性嚮から、吝嗇になり年を取るに随つて、金錢以外は何事も考へないと云ふ人もあります。運氣は三年半と、七年目に變り、三十八九才から、やつと樂になり段々とよくなつて晩年には安樂になる事が出來る。

適業は事業家、實業家、商人等、理財方面がよく、商賣は木と水に縁のあるもの、例へば山林業、建築業、材木屋、家具屋、酒屋、醬油屋、等。この月生れの人には、徳川家光、二宮尊徳、岩倉具視、高橋是清、ジュリアス、シーザー、ジョンロックフェラー等があります。

◎八月生れの人……この月生れの人には、親切で情深く、友情があり、人を魅する力があります。そして家族の者を深く愛し、非常に孝心深く、妻子を愛し、理想の

家庭を作くる事も出来ず、そして物事を細密に考へてなすと云ふよりも何でも物事にこだはらずに、ときばきとやる方です、素質は幾分粗く、短氣なところがありますが、人を憎む事ができず、清濁併せ呑むといふ雅量があり、人にたのまれると否といふことが出来ないので證文などに印を押し、その後始末をせねばならなくなるやうな、迷惑をうけることにもなります、一體に親分肌のところがあります、婦人は殊に愛情深く、良人を思ひ、子供を愛する念がつよく、その教養などのことは自分の思ふやうにせねば氣がすまず、寧ろ極端といふ、程に愛情深いのです、ですから家庭の主婦としては、この月生れの婦人を探るのが、最もよいのであります。また此月生れの人には、勇氣一方で恐ろしく負け惜みの強い人があり、何でも人と對抗して、これを負かさなければならぬといふ氣性で、敵を愛すると云ふ雅量がなく圓滿に他と交際してゆくことの出来ない人があります。運氣は四年目と八年目に變り、初年は親兄弟の助力もなく、苦勞するが、二十七八

才よりよくなり、三十六七才位で、凶くなる人は凶くなるが、よくなる人は、ずつとよくなつて、晩年は概して幸運であります。適業は學問的にも理財的にも適し、學者、實業家、商賣ならば木と金に縁のあるものがよく、例へば材木屋、紙屋、金物屋、時計屋、機械屋等であります。この月生れの人の中には、中將姫、吉田松陰、伊達政宗、岩崎小彌太、横田千之助新渡戸稻造、ナポレオン、ブルフレッドテニソン等があります。◎九月生れの人……この月の生れの人には、情に厚く寛大で、人をひきつける非凡の磁力を恵まれて居ります。組織的な鋭敏な頭腦の持主で、何事でも方法順序を立て、やり、決して物をいやしくもせないと云ふ性質で、人に何かいはれても、直ぐ同道することなく、必ず自分から考へ研究して初めて肯定すると云ふ風です、そして記憶力がよく一を聞いて十を知ると云ふ風に、學ばずして、たゞ聞いただけで自分のものにするといふ才能があります、歌なども教はることなく、聞いただけで直

く覺へて仕舞ます、また模倣することが好きで、何でも流行の魁をするといふ風です、利殖にも却々巧みです、異つた風物を愛し、旅行好きであります、この月生れの人は、他人にも完全を期待する念が強く、そのために往々自分本位になり、口やかましくなる傾向があり、また大變にやかまし家で、ともすれば人を散々に批評するやうな性質の人もあります、また見禁ばかり張つて、さつぱり内容の充實しない人もあります。

運氣は四年目、八年目に變り、概して苦勞なく、社會から援助を受ける人であり、病氣、災難等も免れることができ、不幸な境遇になつても、いつか援助者が現はれるといふ風ですから、日頃誠實に職務を勤めさへすれば、決して甚だしい非運に陥ることはありません。

この月の生れの人には、智的方面に働くのが最もよく、世の指導者として秀れた、才能を恵まれていきますから、學者、文筆家、教育家、音楽家、俳優、實業家等が適業

であります。

此月生れの人には渡邊華山、伊藤博文、小村壽太郎、黒岩涙香、大倉喜八郎、トルストイ、ネルソン、エルサベス女皇、等があります。

◎十月生れの人……此月生れの人には、人の頭となるべき器の人で、一本調子な小才を弄しない、どつしりした膽のある、奮闘家、活動家、立派な人となるだけの素質を持つて居ります、また聰明な頭腦と、鋭敏な直覺力とを有し、敏捷で機先を制する方であり、そして胸はいつも大望に燃へ、希望に充ちて居り、失敗に失敗が重つても落膽したり、失望したりして倒れるやうなことはありません、失敗すればするほど、努力の心を奮ひ起して、遂には成功することが出来ます、理財にもなかく長じて居ります、この月生れの人には、親切で愛情深く、友情にも厚く、残酷なことなどは出来ない性質であります、そして子煩悩で、非常な綺麗好きで、骨折仕事や汚い仕事は嫌いです、また強情で頑固で、ひとりよがりの者もあり、また

機敏な性質を悪用して、人をダマスやうな人もあります、婦人で教養のない人は、多情で浮気者もあり、且つ金銭の貴さを知らずに浪費し、家庭をよく守れない人もあります。

運氣は五年目、十年目に變り、三十六七歳までは苦勞しますが、四十二三歳位から段々よくなります、婦人は中年から凶くなり、ひとりて働いて、自治せねばならぬいやな方もあります。

適業は政治家、實業家、軍人、文筆家等がよく、商賣ならば土か金に縁のある、例へばセメント屋、瓦屋、石材業、山林業、米穀商、鐵類商、機械店、等がよいのであります。

この月生れの人には、由井正雪、大山巖、西園寺公望、山本權兵衛、安田善次郎、服部金太郎、フオツシユ元帥、キツチナー元帥、ベルグソン等があります。

◎十一月生れの人………此月生れの人には、意志が鞏固で落着きを持つて居り、仕事

に熱心で中には人と交はらずに、こつこつと仕事にのみ熱中するといふ人もあります、すそして物事はすべて理窟が解らなければ、決して承知しないと云ふ程、理窟ばい傾向があり學問が好きです、又手先が器用で、西洋では外科醫の大家は、此月の生れの人に多いと言はれて居る位、手先が器用であり、又話上手で、なかくの雄辯家があります、俗に云ふお人よしの方もあり、又圓通自在の人があります、婦人にはよく良人を助け家政を執るしつかりした者もあります、又快樂好きで少しだらしのない人もあります、この月生れの人には、人を騙して、面白可笑しく一生を送らうといふ人があり、自分の小手先の器用に頼つて、勉強しない人もあります、本來が怠惰の性質ですから物事を投げやりにせず、勤勉すべきであります。

運氣は五年目、十年目に變り、中年になつて性質の一變する人があります、即ち今まで勉強な人は投げやりな、懦弱な人となり、大酒飲みになる人もあります、また今まで怠惰な人は、四十歳頃から眼が覺めたやうに、勉強になり、蓄財に心懸けるやう

になります、いつも懦弱の心を起さず、晩年になるに従つて、運がよくなります。

適業は技藝でありませんが、學問技藝では、いくら努力しても中以上に出る人は少ないので、すべから、すべて大きな計畫に參與することが最も成功の道です、小手先の器用には決して甘んじてはなりません、商賣とすれば土か金に縁のあるもので、例へば瓦屋、セメントヤ、砂利屋、機械店、貴金屬店、時計店、鐵類店等がよいのです。此月生れの人には、桂太郎、乃木希典、野津道實、井上馨、三浦梧樓、島田三郎、尾崎行雄、和田豊治、カーネギー、マルチンルーテル等があります。

◎十二月生れの人……此月生れの人には真面目で誠實で、生一本で、精力絶倫な、疲勞を知らぬ、飽くまで、實際的、實行的な人であり、また名譽心に富み、つても大きな希望を持つて、常に奮闘して、仕事なども決して小な仕事には甘んぜず、大事業くと計畫する風です、そして斯る大事業が遂に成し遂げられるとい

ふ程、全體としては、幸運に恵まれて居ります。

此月生れの人には、思ひたつたら誰が何と言はうと、これをやり遂げるといふ風で、進取の氣象に富むとも言はれますが、その爲に失敗することもあり、戀愛などにも、恐ろしいほど、眞剣になつて、身を破る人などもあります、また智謀ある活動家ではあるが、性急で結果を待ち忍ぶことが出来ないといふ缺點があり、また人によつては、激し易く怒りよく、強情我慢で、殘酷性を現はす人があります、また東西に流浪する人もあります。

運氣は三年目、六年目に變り、三十時代に變化があります、努力によつてよくなり、晩年にはよくなること出来ます、婦人は子供が澤山生れ、良人縁も深く、よく家庭を守つて、よき妻でありよき母であります。

適業としては政治家、事業家、實業家等すべて大きなことがよく、木か火に縁のあるもの、例へば鑛業、土木、建築、山林、木材、電氣等を扱ふ大まかなものならよ

いのです。

此月生れの人物には、徳川家康、西郷隆盛、福澤諭吉、大谷光瑞、床次竹二郎、ニ
ユートン、コッポ、ウイルソン等があります。

第十一 ◎各生れ日の運勢

前に生れ月の吉凶を述べましたから、今度は生れ日の吉凶を説く事に致します。

◆一日生れ……この日に生れた人は、大なる長命はしないが、概して立派な友人を持
ち、愛嬌もよいので、商賣家となれば成功することが出来ます。

◆二日生れ……この日に生れた人は、性質善良で親切であります、また身體も健全で
あります。

◆三日生れ……この日に生れた人は、二十一歳まで艱苦に遭ひますが、同年以後はそ
の努力が酬いられて成功し、よき友人を得ることが出来ます。

◆四日生れ……この日に生れた人は、智慧、學識ともに卓絶して居り、遠國に旅行す

ることがあり、それによつて得るところ多く、また世話好きのために、他人の事件
を處理せねばならぬ事になります、人の世話には注意せねばなりません。

◆五日生れ……この日に生れた人は、二十三歳を経過するまでは随分辛苦せねばなり
ません、また二十歳か二十二歳ぐらいで、結婚することになります。

◆六日生れ……この日に生れた人は、澤山の良友に恵まれ、一年中の富貴顯達を得べ
き機会が、屢々あります、その年は二十一歳、二十四歳、二十九歳、三十三歳、三
十八歳、四十五歳のうちでせう。

◆七日生れ……この日に生れた人は、時々自ら自分を敵とすることがありますが、ま
た知らぬ人より突然助けを受けるやうなこともあります、然し大なる富を保ち得る
ものは、少いやうです、妙な氣象の人で、且つ短氣であるが、身體は健康で、病氣
をしても直ぐ治るといふ風です。

◆八日生れ……この日に生れた人は、概して幸福の身分であつて、他より遺産を受け

ることがあります。

●九日生れ……この日に生れた人は、社會に於て尊敬を受ける人であつて、事業は、繁昌し、ぐんぐんと地位を得る事も出来ず、又他人の事をも處理することとも、なりませう、性質は氣輕で誠實で、身體も達者の方です。

●十日生れ……この日に生れた人は、二十四才を過ぎるまでは、如何なる事に當つても、他の多對と多くの困難に遭ふことがありますが、それに打ち勝てば、中年以後には好運があつてつれてきます。

●十一日生れ……この日に生れた人は、中年になると多くの友人の財産とを得ることになります、そして時々多くのことで豫期以上の成功を得ることが出来ず、晩年は幸福の人であります。

●十二日生れ……この日に生れた人は、年若い時代に多くの困難と戦はねばならぬ、運命を持っています、二十六歳以得からは、段々とよくなりまた、中年に至つて

から、多くの財も蓄へられまた、思ひ設けぬ他の後援を受けるやうになります。

●十三日生れ……この日に生れた人は、普通以上に身分を高める運命を持っています、こつこつ働いて財産を作り、多數の人から賞讃される人です。

●十四日生れ……この日に生れた人は、家庭繁昌して安樂に暮すことができ、遺産を相續する事となります、又多くの秀れた友人を持ち、高位の人からは愛され、未知の人より種々と便宜を受けるものであります。

●十五日生れ……この日に生れた人は、訴訟争ひ事に金錢を費し、結局勝利を得ることが出来ないで終るといふ風ですから、短氣の性質を注意し、慎重に事に當ることが、この人には最も肝要であります。

●十六日生れ……この日に生れた人は、多大の尊敬と幸福と友人とを得ることが出来ます、元來が天才的傾向のある人であつて、音楽、詩、繪畫等に趣味を有し、或は又この方面に於て名聲を博することの出来る人です。

◆十七日生れ……この日に生れた人は、若年の間は種々の事で、障害に遭ふことのあるのを覺悟せねばなりません、然し後には遺産も相続するやうになり、中年から、運もだん／＼と開けます。

◆十八日生れ……この日に生れた人は、若い時は親族の助けを受け、だん／＼財も蓄へることが出来ます、男は婦人の友人を多く持ち見ず知らずの人から種々と便宜を受けることがあります。

◆十九日生れ……この日に生れた人は、生れついた身分以上に出世し、大成功を遂げ社会に頭角を現はし、幸福に生活することが出来ます、そして商賣は榮へ、また多くの男女の友人からも好かれます。

◆二十日生れ……この日に生れた人は、若い時代は波瀾に富んだ生活をしますが、中年から金も出来、友人も集り、だん／＼と出世する人でありませす。

◆二十一日生れ……この日に生れた人は、普通に出世する運命を持ち、邸宅、地所を

所有する身分となり、投機的事業には好運で、年老いた人からも愛せられ、だんだんと運が開けてゆきます。

◆二十二日生れ……この日に生れた人は、二十五才頃までは多くの困厄に遭ふ事がありますが、その後は事業にも成功し、友人も得られ、商賣繁昌し、働きも認められ、地位も與へられるやうになります。

◆二十三日生れ……この日に生れた人は、訴訟によつて多大の金銭を失ふことがありませす。そして屢々職業や位地を變へ、女は外出勝ちです、二十五才には、兎角面白からざる行爲に出る傾きがあります。

◆二十四日生れ……この日に生れた人は、他より尊敬を受け、努力によつて財産を作ることが出来、他の人にも利益を與へるといふ風に、愛他的になります、性質は伶俐に、一體に器用であります。

◆二十五日生れ……この日に生れた人は、一般に公の仕事に關係し、その持ち前とす

べき職務または事業に成功致します、然し敵を持つおそれがあります、女は良人に
よく仕へ、家庭をよく守ります、住所はたび／＼移る事があります。

◆二十六日生れ……この日に生れた人は、他より尊敬せられ、多くの人より慕はれま
す、そして長上の引立によつて、大に出世致します、家屋財産等も所有するやうに
なり、人の仕事を取扱ふ事となります、性質は温順勤勉で、子煩悩であります。

◆二十七日生れ……この日に生れた人は、その住所が屢々變り、金銭に縁薄く友人も
少い、ちつと考へて物事をするると云ふ方ではなく、氣忙しい性質です、従つて思ひ
かけぬ大きな失敗をして、頭をかくやうな事があります、然し努力次第では、晩年
は安樂に暮らすことも出来ます、身體は健全。

◆二十八日生れ……この日に生れた人は、中年前は種々の事で、障害に出遭ふもので
ありますが、それが善い試練となつて、それ以後は成功の運に向つて、商賣を始め
てもよく、また何か職に就ても、勤勉なので商賣繁昌し、働きも認められて、地

位も與へられることとなります。

◆二十九日生れ……この日に生れた人は、友人知己が多く、そのために得ることもあ
るが、失ふ事も多いのであります、なか／＼の活動家で、少しもちつとしていると
いふのが嫌ひで、用がなければ人の用を見付ても、飛び廻るといふ風です、自分の
職務に、其精力を傾ければ必らず成功致します、また死者の爲めに利益を受ける象
があり、知らぬ人より利益を受けることもあります。

◆三十日生れ……この日に生れた人は、性質快活で聰明であります、また愛嬌に富
み、寛大なところもあります、多少氣忙しい性質です、長上より愛せられますが
又一方には他より制せられるといふ運命を持っていますので、自分で成功するほか
ありません、二十五才で、運氣一轉の象があります、然し晩年は多福なる生活を送
ることが出来ます、要するに慎重の注意が肝要です。

◆三十一日生れ……この日に生れた人は、若年は大分苦勞をします、まことに氣の毒

とも思はれる位ですが、それが後で考へると何よりの成功の基礎となるものです、その勞苦を経てからは、運が開けて多幸なる生涯に入ります、友人間には情があります、反対者に對しては、その處置は苛酷な位です、晩年自分を今日あらしめた人に對して、報恩のことがあります。

第十二 ●吉運と凶運

方位に吉凶があり、生年月日に吉凶がある、それによつて幸運に恵まれ、それによつて悪運に祟られる、其吉凶禍福は、一體どう云ふ神祕が潜んでいるか、誰しも之れには尠からざる恐怖を懷いているのであります、よつて本段には、人間の喜ぶべき吉運と、恐るべき凶運とを授け給ふところの吉神と邪神とが空間にまします事を述べることに致します。

●歳徳神と八將軍

歳徳神と八將軍、天竺の北に九相といふ國がありました、ここに吉祥園といふ園に

牛頭天王(武者天神ともいふ)といふ王様が住みになつて、婆謁羅龍王の女(頗利塞女とも書く)をお娶りになりました、八人の王子をお生みになりました、この王子が即ち八將軍で、その中七人は悪神で、このお母様が歳徳神であります、八將軍と申しますのは、即ち太歳神(惣光天王)、大將軍(魔王天王)、太陰神(俱摩羅天王)、歳刑神(得達神天王)、歳破神(良待天王)、歳殺神(待神桐天王)、黄幡神(宅神桐天王)、豹尾神(蛇毒鬼神)の八人であまりす。

●歳徳神

◆歳徳神……この神は歳神の中の徳神であります、この方のまします方位には、あらゆる福が集り、禍が除かれる吉方であります、そこで大將軍のまします方を「ふさかり」と申しまして、他を「あさ」の方とも、恵方とも申します、年の元日に此の方位の神社に詣で、その年の吉運を祈るのを、恵方詣りといふ事は、讀者の御承知の筈であります。

◎大 歲 神

◆大歲神……一名歲君 木星の精だそうです、このお方は子の年には子の方に、丑の年には丑の方にましますから、この方角には、婚姻や移轉には差支ありませんが、口論、伐木などは悪いのです、もし之れを犯すと大難を蒙る事になります。

◎大 將 軍

◆大將軍……金星の精で、方伯の辰でありますから、武人を統御するの象があり、殺伐の氣を含んで居ります、これを犯せば、金神と同じく、大災を受ける事になります、旅行、移轉、普請などは、此方角にやつては不可ません。

◎大 陰 神

◆大陰神……土星の精で太歳の後妃だと申します、陰時を司る神様でありますから此方角に向つてお産などをしては善くないのです。

◎歲 破 神

◆歲破神……此神様は子の年には午の方、卯の年には酉の方にましますから、此方角に旅行とか普請とかは見合した方がよいのです。

◎歲 殺 神

◆歲殺神……陰の神様で萬物を滅却すると云ふ恐ろしい方です、此方のまします方角は、未、辰、丑、戌の四方に限つて居ますからそれを犯しては不可ません。

◎黄 幡 神

◆黄幡神……歲殺神と反對に、辰、丑、戌、未の方にまします、此方角に土を動かすやうな事はよくありません、然し撃劍の道場などを開く事には差支ないと云ふ事です。

◎豹 尾 神

◆豹尾神……黄幡神とは反對の方角にまします蓄類を求めてはならぬと云ふのです、頗るすばしい神様だそうであります。

● 歲 刑 神

◆ 歲刑神……北東から南西にかけて悪いと云ふのですけれども、其の遊行日を見立て、事を行るには一向差支はないのです。

● 金 神

◆ 金神……金神は元來八將軍の外の荒神で、大變に人に怖られている神様で、金氣の精であります、金は萬物を枯損し、殺伐を司り、何事をも打破る荒神様で、もし之れを犯す者は、金の七殺と云つて、眷族七人までも殺し、もし家人が足りなかつたら、隣人までも殺すと云ふ神様です。

以上(一)から(十二)までは、此著の總論と見做すべきもので、以下は其細目であり、まず、よつて讀者は、先づ(一)から(十二)までを能く精讀なさつて、占に對する一般の智識を獲得せられて、何か事の起つた場合、どうしても自分で判斷の付かない事

乃至は願ひ事その他の要件に付て、吉か凶かを占うて御覽なさい、百發百中は、著者が堅く保證致します。

● 占ひの方法

占ふ前に、算木になづらゑた、箸か紙かを小さく六つに折るか丸めるかして、三つは黒くぬり、三つはそのまゝにして、黒を陰と定め、白を陽と極め、其れを一握みに右の手に握り、平素自分の信仰する神様を、一心に念じ、冥目五六抄の後に、疊が机の上に投げて、黒が幾つ白が幾つと、上下に並べて、卦象の第何番に該當するかを見極め、而して卦象の下に書いてある文句に照して、吉か凶かを判斷するのであります、例へば箸で占ふ場合、左の圖に示す如きものが現はるれば。



黒が三つ、白が三つであれば、天地否で、番號は第九番であります。

紙を丸めてやつた場合に、左の圖の如きものが出れば。



上は白が一つ黒が二つ、下は黒が三つであるから、澤天快で、第五番であります、これは固より箸や紙に限つたわけではありません。一錢銅貨六個を用ひてもよい。

●占ひの題目

- (一) 願望は叶ひませうか。
- (二) 今やつて居る事で成功しませうか。
- (三) 之れから先儲かるでせうか。
- (四) 他國で生活する方がよいでせうか。
- (五) 待つて居る人は來るでせうか。
- (六) 失せ物は私の手に戻るでせうか。
- (七) あの人物はどんな人物でせうか。

- (八) 旅行してよいでせうか悪いでせうか。
- (九) あの人は私を愛して居ませうか。
- (十) あの人と結婚してよいでせうか。
- (十一) どんな妻が得られませうか。
- (十二) 産れるのは男兒でせうか女兒でせうか。
- (十三) 私の將來の運命はどんなものでせうか。
- (十四) あの人の將來はどんなものでせうか。
- (十五) 今日の運勢は如何でせうか。
- (十六) 昨夜見た夢は吉でせうか凶でせうか。

●呪文及び占法降神術

讀者……御承知の如く、大道易者は、人の運命を占ふにあつて、さも鹿爪らしい顔をして、笠竹バチ〜「天澤火雷風水山地」と唱へます、これでは殆んど意義をな

寅 地天泰

七四

○願望 叶ふ ○得物 得べし ○待人 来る ○抱人 長く辛抱せ
 ず ○縁談 調ふ ○出産 安らか即ち安産 ○疾病 治る病後の
 注意すべし ○醫師 西南の間より迎へよ ○走人 同行あり現在
 の所より他に去らんとす ○失物 西南の間より出べし ○訴訟
 利を恃むと大に害あり ○轉宅 差支なし ○旅立 大吉 ○住所
 苦勞あれども人より引き立てらる安居すべし ○仕官 他と競ふこ
 と凶その外吉 ○賣買 利あれど慾に走るべからず ○相場 騰貴
 する ○天候 雨ふる。

判断……此卦を得たるものは、心に大望を抱いているが、單獨運動では望みは達しな
 い、宜しく目上の人に頼る事だ、兎角人に迷はされる傾きがあるから、大に婦人に注
 意すべしと云ふ卦象であります。



寅 地天泰 (第三番)



卯 雷天大壯

七五

○願望 成就すべし但し中途障りあり ○得物 なし ○待人 来る
 ○抱人 よろし ○縁談 まとまる ○出産 安産にして男子 ○疾
 病 あやふし ○醫師 西南の間 ○走人 西南坤の方に在り
 ○失物 西北乾の間物の下にあり ○訴訟 扱方に任すべし ○轉
 宅 凶 ○旅立 差支なし ○住所 安からず ○仕官 正直にし
 て謙遜なる吉 ○賣買 日用品の外は損 ○相場 今高ければ必ず
 大に下る ○天候 雨然し程なく晴

判断……此卦は貴人、學者、僧侶には差支ないが、凡人には大吉なれども不相應なれ
 ば、満つれば虧けるの儀に洩れず、吉變じて凶となるの憂ひがあります。安泰に甘ん
 じて驕奢懦弱に陥れば、遂に否の閉塞にあつて滅亡を招く事がある。婦人又は目下の
 者の爲めに誤らるゝ事があるから大に慎むべしとの卦象。

卯 雷天大壯 (第四番)

卯 雷天大壯

七六

○願望 叶はず ○得物 なし ○待人 同伴あり来る ○抱人 凶
 ○縁談 調はず ○出産 安らか女児か ○疾病 危篤 ○醫師 南
 は大凶北方より迎ふべし ○走人 遠方へ去り来らず ○失物 西
 北の間にあり急にせば出づ ○訴訟 示談にせよ強ひてなさば理を
 失ふ ○住所 悩みあれども變ずるは凶 ○轉宅 凶然し春冬はよ
 ろし ○旅立 見合すべし ○仕官 よろし他に損失驚愕の事あり
 ○賣買 時機に従つて爲すべし ○相場 一高一低即ち亂高下なり
 ○天候 春冬は晴他は雨勝ち。

判・断……此卦に遭ふ人は、物事何となく成就せぬ、又急にすれば大害があります、此人固より産業の志あるが、之れに疎く、大仕掛に爲さんとして失敗するの兆があります。又短慮にして偏屈であるから、兎角人と口論する事があるです、加之人を疑ひ又人に疑はるゝ嫌ひがあれば、大に身を慎んで、實意本位でやれば、繁榮する筈であ

ります。



辰 澤天快 (第五番)

○願望 婦人か僧侶の力に頼めば効あり ○得物 急ならざれば得、
 ○待人 不時の障りありて来らず然し婦人ならば来る ○抱人 吉然
 し年少者は凶 ○縁談 調ふも後に至り悔あり凶 ○出産 安し初
 産は女子 ○疾病 長引くも生命に異常なし ○醫師 西北方
 走人 山方の國へ志し行く急に知れず ○失物 西北の方にあり出
 訴訟 人の意に任せよ ○轉宅 障りなし ○旅立 凶 ○住所
 悩みあり人の意に従ふべし ○仕官 凶成るとも妨げあり ○賣買
 損あり動かざる方利あり ○相場 騰らず下らず ○天候 晴る。

判・断……此卦を得たる人は、一旦は繁榮に赴き旭日昇天の勢あるが、其の勢に

辰 澤天快

七七

己 乾 爲 天
驅られて慎まなければ、破産することがあります、此人は短慮で怒りつばい、宜しく短慮を慎んで、人と争ふては不可せせん、又色情の爲めに飛んだ疑惑を受ける事がありますれば、此等は深く注意すれば、發達するの卦象であります。



己 乾爲天 (第六番)

○願望 身に應ぜぬ事は叶はず ○得物 正直にせばあり ○待人 來らず然し辰戌の日に便りあらん ○抱人 南方の人の外なし ○縁談 媒介者の故障あるか再三交渉の煩ひあれど大抵纏まります ○出産 安らかに生る男兒ならん ○疾病 危篤の病にて夏冬は殊に危し ○醫師 西北の間の名醫を選ぶがよし ○走人 社寺か城内に近き所に居るべし又西北の方へ再走の傾きあり ○失物 出づ西北の方 ○訴訟 我意を徹さんとするは悪し 扱方に任すべし ○

判斷……此卦に遭ふ者は、氣質高慢に驅られ、人に憎まれる、然し貴人顯人、學者、僧侶等は其の名聲あがり發達する、常人にあつては兎角日常の職業を怠み、虚榮心強く、文雅風流に傾く兆があり、爲めに不徳の行ひを敢てし、仕官の念を起して、氣苦勞をする、又金銭住居の苦しみがあり、不利益な事がつゞく、故に我意を慎み、不正不義及び利慾に走らず、律義誠信なるときは、自己を全うすることが出来るといふ卦象です。



午 天風姤 (第七番)

午 天風姤

末 天山遯

八〇

- 願望 叶はず ○得物 得がたし ○待人 来るされど遅し ○抱人 凶 ○縁談 見合せる方よろし ○出産 少し悩みあり ○疾病 重し ○醫師 西北の間 ○走人 出づるとも歸らず ○失物 西北の間にあり出でず ○訴訟 利なし示談するを可とす ○轉宅 凶 ○旅立 遠方は損近きは差支なし ○住所 差したる異りなし ○仕官 凶 ○賣買 注意してなせば必ず利あり ○相場 漸次下るべし ○天候 風ありて曇る夏は雨降る。

判断……此卦に遭ふ者は、従來の身の苦勞がとれ身の上も段々持ち直す兆があるけれども、時機未だ熟せず、心中の希望調ひ難い、又、女難があり、長上の怒りを受け、る事もある、此等注意して、其發達の時機を逸せぬやうにすべしとの卦象。



未 天山遯 (第八番)

判断……此卦に當る者は、生活難に心勞が絶へぬが、之れに頓着なく、物事を熟慮してやれば、終りには勝利を得る、何事も急がず又手控にすべしとの卦象。



申 天地否 (第九番)

申 天地否

八一

- 願望 急に叶ひ難し ○得物 急げば得ず氣を落付けて成すべし ○待人 来る遅し ○抱人 半吉 ○縁談 調ふ ○出産 安らかに男兒生る ○疾病 危篤に陥るされど生命に別條なし ○醫師 西北の間か南方よろし ○走人 西北に在れど時々居を轉じて知れず ○失物 西北の間か南方にあり急に探せば出づ ○訴訟 宜しく示談すべし裁判は長引く ○轉宅 吉 ○旅立 途中障りあり目的地に至らずして歸る ○住所 障りなし ○仕官 凶 ○賣買 高値なれど下る氣味あり ○相場 下る ○天候 近き内に雨降る。

○願望 急には叶はず ○得物 待たざれば得難し ○待人 來らず
 ○抱人 見合す方よし ○縁談 斷じて調はず ○出産 安らか ○
 疾病 死病なれど治る事あり ○醫師 西南の方よし ○走人 西
 南に隠れ居れど知れず ○失物 探しても出ず ○訴訟 理あれど
 も敗ける ○轉宅 凶 ○旅立 危険あり止むる方可なり ○住所
 今悩みあるも後よし ○仕官 時を待て ○賣買 時勢に従ひあせ
 るべからず ○相場 段々と騰る ○天候 曇りて降らず。
 判断……此卦に當る者は、病難があり災難ある、さりとて之れを氣にし心配すれば却
 つて害を益す、よつて平然と構へて時機を待つべきである、要するに此卦象は諸事塞
 りて通ぜざるの狀であるから、人と争はず心を穩順にして日月を累ぬれば、又、必ず
 吉兆が現はれることもある。



西 風 地 觀 (第十番)

○願望 父母君主の事は叶ふ ○得物 正しければ得 ○待人 來る
 ○抱人 容貌よろし人物を吟味せよ ○縁談 疑はざれば調ふ ○出
 産 安らか男兒 ○疾病 治る ○醫師 西南の間 ○走人 西南
 より巽の方角に走る歸らず ○失物 損じ出でず ○訴訟 正しけ
 れば勝不正なれば敗 ○轉宅 差支なし ○旅立 吉 ○住所 安
 らかなり ○仕官 誠實の人よし ○賣買 正直にせば利あり ○
 相場 騰る ○天候 風。
 判断……此卦に當る者は、舊きを守つて、新きに趨ることはよくない、兎角人に迷
 はさるゝ恐れがあれば、心を堅固に取り守つて居れば、諸事に障りがなく、人を敬し
 て己を卑下して居る時は吉。



戊 山 地 剝 (第十一番)

亥 坤 爲 地

八四

- 願望 叶ひ難し ○得物 得ず ○待人 來らず ○抱人 吉 ○縁談 障りあれども調ふ ○出産 安らか兒は男 ○疾病 長く危し老人は死ぬ ○醫師 東北の間よし ○走人 東北丑寅の方へ行
- く歸らず ○失物出でず ○訴訟 大凶示談せよ ○轉宅 吉 ○旅立 見合すべし ○住所 障りなし ○仕官 凶 ○賣買 利なし ○相場 騰る ○天候 大に降り又急に晴れる。

判斷……此卦に當る者は、自分の分限を顧みて注意すれば、新規の事業に着手するも差支ないが、目下の者の爲めに、損失を招く恐れあれば、油斷してはよくない、兎角人の親しみを受くるが、運は拙い方である。



亥 坤爲地 (第十二番)

- 願望 急がざれば叶ふ ○得物 女の手によつて得る然し春冬は駄

- 目 ○待人 卯、未、申の日を待つべし來るか便りあり ○抱人 東北の人は凶他は吉 ○縁談 夏秋はよしされど急げば纏まらず、
- 出産 速かに生る男兒 ○疾病 治るも長引く ○醫師 西方の老醫を迎ふべし ○走人 近くにあり婦人の手づるを探るべし ○失物 急に出でず西南の方にあり ○訴訟 示談にせよ ○轉宅 動かざるをよしとす ○旅立 遠方は凶近くは同行あればよし ○住所 變ずべからず ○仕官 急がざれば成る ○賣買 舊を守り人に従ふを吉とす ○相場 下りて久しく保つ ○天候 牛卵の日の外は雨。

判斷……此卦に當る者は、疑念を去り目上の人に迷はざれば、榮ゆるか、進んで新規の事業に手を出すは凶。

●六十四卦の内から單に以上の十二卦を取りました理由は、前に掲げてあります。九

亥 坤 爲 地

八五

星や陶宮術などに結び附んが爲めであります、繰り返して申しますが、讀者は、(一)から(十二)までの總論は、是非とも記憶して戴かなければ、判断を過まらぬとは申されません、之れは呉々も御注意申し上げる次第であります、それから御詫宣の文句には、夢に關することがありませんから、更に之を袖足する事に至します。

◎吉凶夢判断

支那では周の時代に、既に占夢の宮を通れた位で、昔から各國民族の間に、夢は非常に不可思議がられていたものであります、之れを學術的に研究しますれば、面白いものには相違ありませんが、限りある紙数には、容易に述べ盡せるものではありませんから、先づ其の大體だけを掲げる事に致します。

(一)開運する夢と就職の叶ふ夢

- ◇種を蒔く夢を見れば運勢開けて果報身に來るべし。
- ◇朝日の昇る夢を見れば立身出世すべし。

- ◇帝王又は高貴の人の前に出る夢を見れば名譽と地位を得べし。
- ◇帯を貰ふ夢を見れば家運隆盛に赴くの兆なり。
- ◇地震に遇ふ夢を見れば官位昇進するの兆なり。
- ◇盗人に斬られた夢を見れば思ひかけない方から果報來る。
- ◇節分に豆撒く夢を見れば立身出世の兆なり。
- ◇魚の多く集るところ又は魚水面に跳び上る夢を見れば立身出世すること妙なり。
- ◇身體に翼生じて空を駆け廻る夢を見れば官職昇進し家榮ゆ。
- ◇天神と物言ひ交す夢を見れば大に富貴を得べし。
- ◇足を傷けて血を流す夢を見れば富貴の身となるべし。
- ◇死人に遭ふ夢を見れば幸福なり。
- ◇蚯蚓の夢を見れば富貴の身となる。
- ◇竈の下に火を焚く夢を見れば、大に名譽を博すべし。

- ◇ 梨の夢を見れば富貴となり、官職頻りに昇るべし。
- ◇ 潮満つると見れば人の棟梁となる兆なり。
- ◇ 家の中に井戸ありと見るときは、居宅擴がり事業發展す。
- ◇ 筆の先に花が咲くと見れば、文名を馳する兆なり。
- ◇ 孔雀の飛び舞ふを見るも亦文筆大に進むの兆なり。
- ◇ 人に殺害せられた夢は立身すべし。
- ◇ 馬に咬まれた夢を見れば就職の叶ふ兆なり。
- ◇ 座敷に木が生えた夢を見るときは、運勢塞がり凶事來る。
- ◇ 富貴となる夢を見れば却つて不運となる。
- ◇ (口) 財寶の集る夢と損失を招く夢
- ◇ 蛇の夢を見れば思はぬ利得あり、金談は調ふべし。
- ◇ 大なる石を得ると見れば財寶を得るなり。

- ◇ 龜の夢を見れば財寶得らるべし。
- ◇ 鳥巢に卵ある夢を見れば、大なる遺産が轉げ込む。
- ◇ 雲が四方に起ると見れば商賣繁昌すべし。
- ◇ 雷が内に入ると見れば財寶舞ひ込むの兆なり。
- ◇ 伯母の夢を見れば財寶を得、又よき友を得べし。
- ◇ 釜を貰ふ夢を見れば、金錢を拾ふことあり、又他より財産を與へらるべし。
- ◇ 家鴨の飛ぶ夢を見れば富豪となり、泳いで飛ばんとするところを見れば、商賣繁昌するなり。
- ◇ 女と連立つて歩く夢を見れば、損失を招く事となる。
- ◇ 泥棒に會つた夢を見れば金上錢の利得あるべし。
- ◇ 谷の水を飲む夢を見れば金満家となるの兆なり。
- ◇ 酒が器物に滿つる夢を見れば、商賣繁昌の兆なり。

- ◇土を取つて我家に持ち歸る夢を見れば、財産を作り得べし。
- ◇蜜柑の夢を見れば金銭を失ひ又盜賊に襲はるべし、警戒が肝要油斷すべからず。
- ◇家族残らず船に乗ると見れば、金銭の損失事あり、注意肝要なり。
- ◇家の中に草が生える夢を見れば、商賣に不利なり。
- ◇猫の夢を見れば、何か物を失ふ兆なり。
- ◇鼠の夢を見れば、敵商より損失を招くこととなるべし。
- ◇泉水築山の景色又は花見遊山などの夢を見るときは損失事あるか、または不意の出費に遭ふべし。

(ハ) 成功する夢と失敗する夢

- ◇鳩の夢を見れば事業に成功し、また友人の信用を博す。
- ◇白色の衣類を夢に見れば萬事に成功するべし。
- ◇孔雀の夢を見れば萬事に成功するなり。

- ◇泣く夢を見るも萬事に成功するなり。
 - ◇牢屋の夢を見れば事業の成功に向ふの兆なり。
 - ◇大風吹くと見れば何事も急進するがよし急進すれば成功す。
 - ◇降雪又は降雨を見れば、事業に成功す、或は思ひ設けぬ福分を授かる事あるべし。
 - ◇天が開くと見れば事成り難し。
 - ◇大川の水涸るゝと見るときは、事業に失敗し窮地に陥る事となる、熟慮靜察すること肝要なり。
 - ◇虹の夢又は黒雲四方に塞がる夢を見るときは何事も急いで片付けるべし、愚圖々々して居るときは事成り難し。
 - ◇子供の夢を見る時は萬事悉く成就すべし。
- (ニ) 願望の成ると成らざる夢
- ◇夕方に化粧すると見れば、よろづの願ひ事叶ふべし。

- ◇天と地とが相合する夢を見るときは、あらゆる願望悉く満たさるゝの吉夢なり。
- ◇屋根に登ると見ればすべての望み叶ふ。
- ◇雨降ると見れば萬事意の如くなるべし。
- ◇髪を洗ひ化粧する夢を見れば、一切の煩悶解決すべし。
- ◇鶯の夢を見れば、願望は成就し、幸福、歡喜、繁榮ならん、若し病人ならば快方に向ふなり。
- ◇兔類多く庭園に集ると見れば、百憂悉く去るなり。
- ◇頭痛むと見れば望みごと叶ふ。
- ◇空晴れ雲散ずるの夢を見れば、憂苦洗ひ去らる。
- ◇糸を繰る夢を見れば、思ひごと紛糾し、面倒なる事件生ず。
- ◇高山に雲霧立ちて山を蔽ひ、或は深き谷より雲霧起りて山を隠すと見れば、一切の願望急には叶ひがたし、時節を待つべし。

- ◇霰または霽降ると見れば、物事すべて捗らず、願ひ事も叶ふ如くにして、中途より挫折すべし。
- ◇廣き野中に大木只だ一本立つと見れば、すべての苦勞集る。
- ◇(ホ)友を得る夢と争論起る夢
- ◇狐の夢を見ればよし、されど用心せざれば舊友の信用を失ふことあるべし。
- ◇大の夢を見ればよき友を得る、たゞし犬に吠えられたる夢は却て友を失ふ。
- ◇燕の夢を見ればよき友を得べし。
- ◇子供死するの夢は一切の争議收まるべし。
- ◇酔うて水中に落つると見れば、必ず訴訟事件起る。
- ◇碁將棋の夢を見れば争論又は訴訟事件起ることあるべし。
- ◇井戸の水涸ると見れば一家不和となる。
- ◇大雪降りて途を埋め又は大水出で、路を失ふと見れば人と不和あり、特に兄弟不和

- ◇ となる兆なり。
- ◇ 苦しみの夢を見れば、他人と不和を來すことあり。
- ◇ 猿の夢を見れば、隠れたる敵あり、訴訟事件起らん。
- ◇ 海川の水波荒くして逆巻くと見る時は、夫婦または親しき人との間に舌戦起る。
- (ハ) 歡び事と悲みの起る夢
- ◇ 洪水の夢を見れば、大なる歡び事あり。
- ◇ 熨斗の夢を見れば、よろこび事あり。
- ◇ 井戸の中から空を仰ぎ見ると見れば、身に歡喜あり。
- ◇ 人と共に泣く夢を見れば慶事あり。
- ◇ 牛又は羊を引いて來る夢を見れば、心に樂しむことあり。
- ◇ 俄雨に遭ふと見れば酒食の饗應を受く。
- ◇ 喪服又は葬式の夢を見れば喜び事あり。

- ◇ 出産の夢を見れば悲しみ事あるべし。
- ◇ 浴みする夢を見れば悲しみあるべし。
- ◇ 夏期雪消えて青々とした山に登る夢を見れば、歡喜來る。
- ◇ 青色の衣類を見れば幸福なり。
- ◇ 山に登る夢には歡びあり、下る夢には悲しみ伴ふ。
- ◇ 神輿の夢を見れば親戚に不幸あり。
- ◇ 齒の脱けたる夢を見れば、知己友人の中に不幸起るべし。
- ◇ 血を流す夢を見れば悲しみごとあり。
- ◇ 鳥の飛ぶ夢を見れば不幸あるべし。
- (ト) 戀愛成就し縁談整ふ夢
- ◇ 太陽の夢を見れば戀に成功す、また富貴を得べし。
- ◇ 時鳥の夢を見れば一時は戀に失敗するも終に己が理想の人と結婚するを得べし。

- ◇ 鏡を拾ふと見ればよき縁談あり。
- ◇ カナリヤの夢を見ればよき妻を得ん。
- ◇ 櫻の夢を見れば戀に惱むことあり。
- ◇ 簾を新しくする夢を見れば、思ふ人と縁談整ふ。
- ◇ 未婚者が夫を持つ夢を見れば、いつまでも獨身で暮すやうになるべし、但し寡婦がこの夢を見ればよろし。
- ◇ 月の影水にうつると見れば、縁談調はず。
- ◇ 螢の夢を見れば思ひ事絶へず、特に色情に關して苦勞あり。
- ◇ 日輝いて出づると見れば、美人を妻とす。
- ◇ 葬式を見れば縁談速かに整ふ。
- ◇ 電の夢を見れば萬事先方より急ぎ來つて相談整ふ、特に縁談には首尾極めてよし
- ◇ 星の飛ぶ夢を見れば、戀愛問題に關して苦勞することあり。

- ◇ 水車の夢を見れば、男子は目上の女より思はれて思はぬ立身出世の緒を得、女は目下の男より思ひをかけられることあり。
- ◇ 月に暈ある夢を見れば、女は身に覺えなき濡衣を着せられ又は浮名を立てらる。
- ◇ 門戸自然に開き、血痕床上にあり、他人來りて我鏡を弄ぶ、もしくは我靴を穿く、衣服を破る等の夢は、妻に私心あるの兆。
- ◇ 蛇人を追ひかけると見れば、心變りせし妻再び我手に還る。
- ◇ (子) 妊娠する夢と出産する夢
- ◇ 茄子の夢を見ればよき子供を得べし。
- ◇ 日蝕又は月蝕の夢を見れば女子を孕む。
- ◇ 日又は月を呑む夢を見れば賢明なる男子を孕む。
- ◇ 日月相會すと見れば妻安産の兆なり。
- ◇ 物を抱いて山に登る夢はよき子生まる。

- ◇ 鯉の夢を見れば姪娠すべし。
 - ◇ 玉を握ると見れば必ず子を孕む。
 - ◇ 金銀の髪飾を得る、熊を見る、寺に住居する、鏡を貰ふなどの夢を見るは、みなよき子を産むの兆なり。
 - ◇ 月輪 懐に入ると見れば伶俐な女子を孕む。
 - ◇ 盃の夢を見ればよき子を孕む。
 - ◇ 手に小石を弄ぶと見れば多くの子を儲けるの兆なり。
 - ◇ 兎の夢はよしされど妻に子なし。
- (リ)長壽の夢と病氣の治る夢
- ◇ 屏風をたゝむ夢を見れば、長命の兆なり。
 - ◇ 仁王様の夢を見れば必ず壽命をのばす。
 - ◇ 空に光現はれ夜明け渡ると見れば、長命の兆なり。

- ◇ 家の中に松生える、溝の水流れる、我頭髮黒し、布帛を織る、または絲をつむぐなどの夢を見れば、共に無病長命なり。
 - ◇ 日光我が身を照すと見れば病氣は平癒す。
 - ◇ 山野を通行すると見れば病氣全快すべし。
- (又)會合の夢と離別の夢
- ◇ 能狂言を見物する夢を見れば、久しく別れてゐる人に再會すべし。
 - ◇ 舟に乗る夢を見ればよき人に會ふべし。
 - ◇ 諸所の名所舊蹟を見物して歩く夢を見れば永く音信を絶ちたる人に再會し、或は斯る人より便りを聞くことあるべし。
 - ◇ 叢雲の月の光を遮ると見れば、夫婦のいさかひ又は離別の兆。
 - ◇ 星落ちる夢を見れば大切なる人と別る。
- (ル)旅立又は家出する夢

- ◇ 鸚鵡の夢を見れば遠方に旅立ち、そこに長く留まることあり。
- ◇ 緑色の衣類を見れば旅立することとなる、廣き野に只だ一人居るか、又新しき家に入ると見れば、共に旅行するの兆なり。
- ◇ 花の夢を見れば旅に出ることを慎むべし。
- ◇ 田植の夢を見れば旅立つことあり。
- ◇ 葡萄を食ふ夢を見れば、旅に出てまた直ぐ歸り來る。
- ◇ 弓又は鐵砲にて人を射る夢を見れば、遠方に旅立つ兆なり。
- ◇ 洪水の夢を見れば船路の旅に出ることあり。
- ◇ 巴且杏を食ふ夢を見れば、長途の旅に上る、其の味甘ければ旅先よろしく、酸ければ旅先にてあしき事あり。
- ◇ 履物を失ふと見れば必ず家出人あり。
- ◇ 門戸自然に倒れると見れば、下女下男家出することあり。

- ◇ 井戸の水を汲む夢を見れば、家出したもの必ず歸り來る。
- ◇ 家を掃除する夢を見れば待人來るべし。
- ◇ 井戸の中を覗く夢を見れば、遠き所より音信あるべし。
- ◇ 酒宴を設け鳴物入りにて唄ふと見れば、遠方より客來る。
- ◇ 他人より射らるゝ夢を見れば、遠くより客來る。
- ◇ 布帛を得たる夢を見れば、遠方より音信あるべし。
- ◇ 船に乗りて酒を飲む夢を見れば遠方より珍客來る。
- ◇ 人と別れる夢を見れば悲しみごとあり。

(オ) 待人來り音信來る夢

X	X	X	X	X	X
X	X	X	X	X	X
X	X	X	X	X	X
X	X	X	X	X	X
X	X	X	X	X	X
X	X	X	X	X	X
X	X	X	X	X	X
X	X	X	X	X	X
X	X	X	X	X	X
X	X	X	X	X	X
X	X	X	X	X	X

●禁厭のはしがき

禁厭と云ふ事は世界いづれの國にも、古くから行はれたやうであります。現に古事記に、黄泉醜女共が、伊邪那岐命を追つかけて、危害を加へ奉らんとした時に「桃子三箇取りで待ち撃ちたまひしかば、悉く逃げ返りき」とあります。之れは言ふまでもなく、一種のまじなひであります。又史記に、秦の始皇帝が天下の書籍を灰燼に附した際にも、醫藥禁厭に關する書籍だけは、焚なかつたと書いてある處を見ます。れば、支那でも随分大昔から行はれたと云ふ事が判ります。

禁厭は果して災害を消し、諸病を治める効能があるか否かは、實驗の後でなくては決して兎角の批評を加ふべきものではありません。讀者は左に集めました諸法を御實験になつたらば、成程之れは不思議だと思召す事があるだらうと信ずるのであります。

X
X
X
X
X
X
X
X

●呪ひの秘法

●蟲獸除去の秘法

(一) 鼠退治のまじなひ

天井裏に陣取つて、夜々器物其の他の諸道具をかじる場合には。

●發喰噫々如律令

以上の七字を奉書紙に、朱で書いて、鼠の出入する所に張つて置けば、鼠は恐れて出なくなるものです。

又 一 法

座敷の下の土を取り、水に煉つて鼠の穴を塞げば、百日が間に鼠は悉く去つて、復た事のなきことは不思議である。

(二) 土鼠の退治の秘法

椿の實を皮と共に、よくうち砕いて、花壇のまわりに置けば、土鼠は決して入らぬ。

(三) 蛞蝓の退治の秘法

蠶の糞を木の根本に埋め置けば、けむしはいつとはなしに去つて仕舞ひます。

(四) 蛇よけの禁厭

蛇は誰れしも嫌ひである、殊に婦人などは非常に恐れるものであります、之れを退治するには、鶏の糞を風上にて焼けば、蛇はてんでこ舞ひして逃げ去るものであります

又一法

田舎などではよく、蛇が天井に登つたり、屋内に這ひ込んで来るものであるが、之れを防ぐには。

●白佛言

以上の三字を書いて、柱に逆に張つて置けば、其の家には這入りません。

(五) 小猫の鳴くを留る法

陳皮(蜜柑皮)を粉にして、小猫に塗れば、うるさい泣聲を止めること奇妙。

(六) 蛙の鳴音を留る法

蛙がないて喧しい時は、野菊の花を粉にして、風上からまき散らせば、三四日はばつたり鳴音をとめます。

(七) 頭の虱を去る法

藜蘆を粉にして髪の中にすりつけて一夜おけば虱は悉く死ぬ。

(八) 毛虱退治の秘法

男女の陰部に毛虱がわいた時は、あくの強い烟草を湯にぬらして、摺付る時は、虱は赤くなつて死んで仕舞ふこと不思議。

(九) 蚊軍退治の奇法

五月五日に浮草を取つて蔭干としたものを粉末とし、樟腦一匁を加へてかきませ、梅干位の大さに丸めて、毎夜焚けば、蚊は水となる、奇妙中の奇妙。

(十) 蠅を去る法

呪ひの秘法

陳茶の粉末を大に焚けば(但しぬる火)蠅は即時に去る。

(十一) 蠅よけの禁厭

五月五日、午の刻に白の字を書き、家の四方の柱に逆に張附て置けば、蠅來らず。

(十二) 白蟻退治の奇法

白蟻は俗に羽蟻とも、どうとう蟲とも申します、放棄て置けば、柱でも敷居でもがらん洞にすることは、讀者御承知の通りであります、之れを退治する奇法は。

樟腦、硫黄を等分にませ、湯の中に入れてよく攪拌て、わらの箒で其の湯を柱又は敷居に移して、ごし／＼やれば、羽蟻悉く死して、復たわく憂いはない。

(十三) 砂糖に蟻のつくを防ぐ法

何れの家でも、砂糖に蟻がつきて困るものであるが、之れを防ぐには、容器の外に、白墨を以て、クツキリと一線を畫する、蟻は元來石灰を嫌ふのであるから、線の中には決して這入らない。

(十四) 油蟲を去る法

青蒿の莖葉を竈の間又は火鉢の邊におく時は、自然に油蟲はより附かない。

◎ 飲食物に関する秘法

(一) 飯の片熟したのを直す法

飯のかたにえしたる時は、酒を少しうちて蓋をし、火氣を通せば、よき飯となる。

(二) 餅のかびを防ぐ法

餅を搗く場合に、餅米一斗の中へ、氷砂糖四匁を取り水の中に入れば、いつまでも、かびは出るものではありません。

(三) 味噌の損じたるを直す法

味噌の損じたる時は、生松の皮をむき去り、大小により二つにも三つにも割り、味噌の中に幾つも打ち込み、七八日ほどおけば、味は必らずよくなる、總て味噌は松を好むから、味噌を入れる器は、松で作つた桶が理想的である、又味噌の味が酸くなつた

時は、味噌桶の味噌に三處ほど棒で孔をあけ、その孔へ熱燗の酒を孔に満つる程入れよく蓋をして十日位経て、その酒を酌み取れば、味は自然によくなる。

(四) 味噌醃を去る法

麥は必ず味噌に醃を生ずるものである、よつて味噌を桶に仕込む時、上に紙を敷き、其の上に隙間なく小石を並べて置けば、かびる事は断じてありません。

(五) 夏季酒の味變らぬ法

夏季は兎角酒の味は變り易いものであります、之れを防ぐには酒一升の中に、糖の葉十五枚を入れて置けば、味は少しも變りません、酒の量が多ければ、糖の葉も之にも準じて入れ、ばよいのです。

又一法

小豆一升を炒り焦して袋に包み、それを酒樽の中に入れて置けば、酸味はとれて味はよくなるものであります。

(六) 井水の濁るを清す法

雨など降つて井戸の水が濁る時は、大豆五十粒、杏仁五十粒をすりつぶして井戸の中に入れて、忽ち水は清みます。

(七) 鶏卵の善悪を知る法

手桶の水に卵を入れて試むる、中の損じたものは浮き、損じないものは沈みます、一々電氣などに照らす面倒は見ずに済みます。

(八) 暑中食物を貯ふる法

何物でも夏季煮た物を貯めるには、香椒をその食物の上におけば臭氣のつく憂ひなし

(九) 鹽魚の鹽氣を去る法

鹽着の鹽をぬくには、木槿の葉と共に水に浸し半月程置けばよくぬける。

(十) 鯉子を急に柔にする法

鯉子を早く柔らかかにせんとならば、漬ける水に篠の葉と唐紙を入れるべし、別格早く、

柔かになります。

(十一) 小鮒の鱗を取る法

小鮒を(幾内尾でも)播鉢へ入れ、篠でよく揉めば、鱗は見事に取れます。

(十二) 松茸の貯藏法

新しい松茸の莖を去り、二三日よき天氣に乾した後、蔭干にして仕舞つて置けば、いつ迄立つても損じもせず香氣も失せない。

◎器物に關する秘法

(一) 澁で書く奇法

澁で文字を書く場合はねばり、附いて運筆の自由を防げるものであります、然るに樟腦を少しまぜて、心なしの筆を皆あろして書けば、自由にかけるものであります。

(二) 墨ぬきの法

板に墨の附いた時は、塩をつけて指先ですれば落ちます、衣服の場合には、梅干を附

けて洗へばあちます。

(三) 破目の見えぬ様につぐ法

塗物の木具又は磁器などのわれたものをつぐには、礪砂粉を小麦の粉に加へ、卵の白みでねり合せてつぐと、跡も見えずにつがれます。

(四) 書畫に時代を附ける法

書畫屋などがよく贋物に時代を附けて、愛好家を瞞着するものであります、其方法は、適宜に煤にてむらなく拭ひ、其の上に生澁に水を等分にしてものを引き、其の後木の實の油で拭ふのです、斯く致しますれば、見事に右書畫の觀を呈します。

(五) 青竹を白くする法

活花に用ひる竹筒を白くするには、荒海布と竹を一所に煮れば白くなる。

(六) 夏季糊に蟲のわかぬ法

夏季は兎角糊に蟲の生じ易いものである、之れを防ぐには、櫛の葉を蓋にして置けば

蟲は少しもわきません。

(七)活花を早く咲かす法

梅であれ櫻であれ何であれ、蕾を悉く咲かせやうとするには、硫黄一匁を花筒の底に入れ、熱き湯を入れて活ければ、咲くことも早く、且つ花の色もよくて長く保てます。

(八)松の枯るゝを活かす法

松を植ゑ變るか、或は自然の故障で、枯れんとする時は、蛤の煮汁を根に度々灌げば葉色も本の通りになります。

◎諸病の秘法

(一)安産のまじなひ

平たい石を鹽で洗ひ、婦人の居間下の東方に下の事を書き付けて埋め、産氣付いた時に、血の字をぬぐひ取ると、其



儘安産すること珍妙不思議であります。

(二)難産を安産にする法

難産にて苦しむ時、蓮の一片に人と云ふ字をかきて吞ませるか、鶏卵一二個を薄味噲で煮て、其の汁を飲ますれば、易々と安産すること妙なりだ。

又一法

桃仁一粒を二つに劈き、一片には可の字を書き、一片には出の字を書き、それを二つ合せて吞めば、即座に生まれる。

(三)乳の出る奇法

乳不足で赤子がヲギヤ／＼と啼くを止めぬ時、赤小豆を水に煎じて吞むか、又胡麻に塩少し入れて五六日食すれば、乳の出ること泉の如しである。

(四)乳の腫物を治する法

非を以て熨すか、李の汁を附くれば、忽ち効果が現はれます。

(五) 小兒夜啼を止むる法

天南星一味を小兒の掌の上に、薄糊ではり付くれば忽ち止むものです。

又一法

小兒の臍の上へ田田の形衆文字を朱で書いて置けば啼は止まず。

又一法

丙寅の二字を、紙に朱で書き、小兒の枕元に置いてもよろしい。

又一法

犬の毛を縫囊(もみの如き切れ)に入れて小兒の背の上にかけてもよろしい。

(六) 小兒の陰莖の腫れた時

小兒の陰莖が時としてはれる事がある、俗に之を蚯蚓に小便しかけた爲めだと申します、それはどうでもよいとして、此時女子をして、腫れた陰莖を、火吹竹で吹かせれば、平癒すること奇妙。

(七) 白髪を黒くする法

黑豆を酢で煎じ常に頭髪に附くるか、柘榴皮を煎じて用ひれば、奇効を呈する。

(八) 面皰を治す法

密陀僧を粉にし、女の乳汁にとき、寝すむ時に面に塗り、翌日洗ひ落す、斯くすると四五度に及べば必ず癒るものである。

(九) 鮫肌をなほす法

行水の湯の中へ湯一升入れ、二十一日續けて洗へば、肌目よくなり、鮫肌悉く癒ゆる

(十) 汗臭きを去る匂袋の法

丁香一兩、山椒六十粒、此二味をきざみ、絹の袋に入れて常に懐中すれば、汗臭き香を去る奇法である。

(十一) 漆まけを治する法

生柳の葉二百枚を一斗五升の水に入れて、風呂を立て、洗へば早速癒ゆる。

呪ひの秘法

(十二) 聲がれを治する法
大根の絞り汁に生姜の絞り汁を少し加へてよくかきまわして吞めば、聲はもとの如くに出るものです。

(十三) 痰を治する奇法
竹葉、黑豆、甘草の三味を水に煎じ、毎度食前に用ゆれば奇効を奏する。

(十四) 肺病を治する妙法
黒胡麻一合、蒜の實一合、花鯉一合、味噌一合、之れに適宜の水を加へ、温火でとろくになるまで煮詰め菜味噌にて食へば癒ゆる。

(十五) 中風必治の妙薬
水一升に無患子の實を(黒皮を去る)二十夕入れ温火にて五合に煎じ詰めて、一日三度用ゆる、薬の力で下痢を起すが、それは毫も心配に及ばない、煎じる時は桑の枝で、攪拌すがよい、不浄を忌むことが甚だしいから、決しは附近に不浄物を置いては

ならぬ、此法は實に靈妙不可思議である。

(十六) 諸毒下の妙法

血の中毒には冬瓜の汁を用ひ、菌の中毒には古壁の土を湯にたて、澄まして用ひ、酒の中毒には、青菜の煮汁を用ひれば効がある。又蟹に中りたる時には、黑豆の煮汁、鯉に中りたる際には、鐵漿を、河豚の中毒には、青砥の磨水を吞めば平癒する。

(十七) 船に酔はざる法

船に乗る時、鹽を臍にあて、紙にて其の上を張つて置けば、怒濤天を拍つの大荒にも酔はざること奇妙である。

(十八) 嚴冬手足の凍るぬ法

胡椒を二つに割り、ほうらくに能く炒り焦し、氣の抜けぬやうに、よく紙に包み、臍にあて、居れば寒氣を覺へない。

X X X X X X X

呪ひの秘法

●靈呪秘法

まじなひは心靈の働きによるのであるから之れを行ふ者は、確乎たる信念を持つて居らねばなりません、さもないと利くべき禁厭も利かない事になります、而して禁厭に着手する時は、第一に時を撰ばなくてはならぬ、第二には禁厭を行ふ場所も亦撰ぶの必要があり、何となれば騒々しくは精神を統一することが出来ないからであります、避くべき場合としては。

- (一) 自分の氣の向かぬ時
- (二) 忙しくて落附かぬ時
- (三) 何か騒擾事があつた直後で精神の散亂している時
- (四) 憤怒、怨恨、悲哀、又は心配事のある時
- (五) 食前の空腹時や食後の満腹せる時
- (六) 酒茶其の他昂奮する物を飲みし時

之れに反して呪ひに最も適當な場合は。

- (一) 氣の向ひた時
- (二) 適當なる運動又は入浴した時
- (三) 空腹でも満腹でもない時

●(一) 諸願成就の呪

五月五日に、鶏の雄の羽毛を採り、之を焼いて酒の中に浸して飲めば願望叶ふ。

●(二) 一生金銭に不自由なき呪

六月の十六日永樂錢十六枚で、何でも食べ物を買ひ、何氣なく十六歳になる子供に馳走してやれば一生金銭に不自由せぬ。

●(三) 衣服の殖えるまじなひ

玉蟲といふ蟲を採り、之れを蔭干にして簞笥の中に仕舞ひ込んで置けばよい、衣服が澤山出来るやうになる。

呪ひの秘法

一一〇

●(四)何事にも疑心深く、且つは嫉妬深い女には黄鳥を煮て食はせると、嫉妬心は必らず去る。

●(五)女の縁を切るまじなひ
男子にして女子との縁を切らうと思ふ場合には、次の符を作りて、其の女子の枕の下に悟られぬやうに入れて置けば、思ひは屹度叶ふことになる。



●(六)男の縁を切るまじなひ
女子が或男との關係を絶たんと願はゞ、次の符を作りて、男に悟られざるやうに首

にかけて居れば、其の願は叶ふ。



●(七)男女思ふ情を通ずるまじなひ
其の歳の恵方に向つて、次の如き符を白紙に認め、常に枕の下に入れて置く、そして毎夜寝る時に左の歌を三遍唱へる。



「虎と見て石に立つ矢のためしあり
などか思ひの通らざらまし」
斯く怠らず行ふ時は、必ず我が思ひは、

呪ひの秘法

一一一

呪ひの秘法

一三三

思ふ人に通じて、相手も亦我れを思ふやうになりませす。

●(八)咳嗽を止めるには、次の如き符を吞めば、不思議に止まるものです。

尸田鬼
日日日
噫急如律令

●(九)鼻血の出る時は、次の歌を三遍唱へれば其儘止まるのである。

「熱田の宮の木隠れに色あと娘とまらざりけり」

●(十)眠らんとしても、目が冴えて眠られぬ時は左の歌を幾度も唱ふれば眠ること珍妙。

「忘れても打ち歎かゝる夕べかな我れのみ知りて返る月日を」。

●(十一)酒嫌ひにする呪

五月五日の朝籬の葉の露を酒にまぜ、それを知らさずして其の者に飲ませると、必ず酒嫌ひになる。

●(十二)寝小便を癒すまじなひ

小兒の寝小便垂れを流すのを治すには、半紙一折を敷布團の下の小便の浸み透る所に敷いて一夜寝させ、翌日其の紙を黒焼にし之れを甘艸五分を加へ、湯を注いで飲ますれば、其夜から寝小便はせなくなる。

●(十三)流行病に罹らぬまじなひ

正月の朔日又は十五日に、赤小豆二十粒麻の實七粒を井戸の中に投入れ、常に此水を飲んで居れば、流行病に罹る憂はない。

●(十四)腫物の口をあけるまじなひ

腫物の口をあけんと思はゞ、下の如き御符を作りてのむ。

呪ひの秘法

一三三

家々
公門
又
噫急如律令

呪ひの秘法

●(十五)顔の中に腫物の出来た時は下の如き符を呑めば速治すること不思議なり。

●(十六)屋作、門出、嫁入等に際し、凶方にあたる時のまじなひ。

屈明見噫息如律令

陽神	陰神	産上神	吾巳推伏
岐神	大國主大神	御璽	陰陽用通
	莫不和順	守護	方災解除

右の外符の外に又内符を劍先形に作る。

呪ひの秘法

以上の二符を封じて
表書には。

方除御祈禱寶牒

陰陽用通

方災解除

平國之廣矛



御劍靈

と記し、凶方に向つて柱などに張り付ければ、屋作、門出、嫁入共に無難である。
●(十七)諸病の平癒を願ふまじなひ
九は頭、五七肩に、二六腰、一三足に、四腹、八つ股。

此呪法は日本武尊が東夷御征伐の砌、供奉の一人磐長なる者が、武藏國秩父郡長者村に留つて、多くの病者をまじなひ、悉く本復さしたといふ秘法である、前記の歌めきたるものを、病者に對して、三遍唱ふれば、重症も輕快に向ひ、輕症は忽ち平癒すると云ふのです。

●(十八)火傷のまじなひとして有名なものは

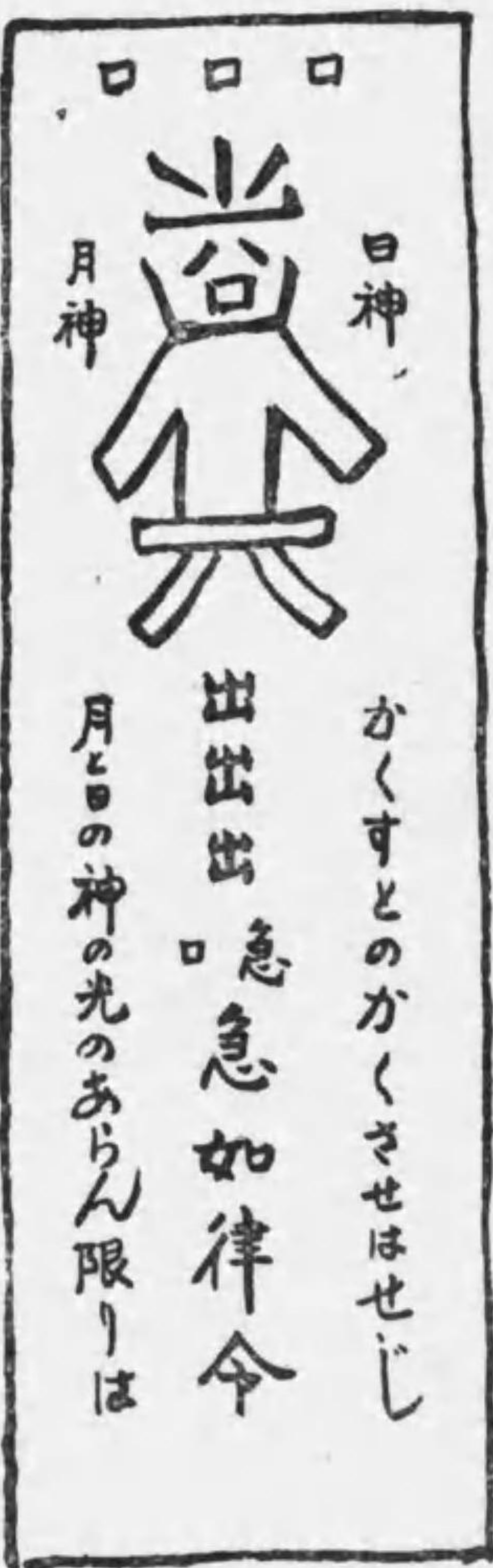
清水を神棚に供へて木花咲邪姫を祭り、此清水を撒じて、淨き箸で清水の上に「雪」の字を九遍書き、左の歌を唱へて火傷を吹き、此清水を紙につけて火傷の上に張る

「何處までも火防風雨の守護なればかけつけたまへ今日の閉神」。

「火傷せばうむなはれるなきづつくな薬となれや富士の雪水」。

斯くして蓼の葉を黒焼にして、墨と澁をまじへそれを火傷の上に塗附くるのです。

●(十九)盜難を的確に顯はすまじなひ



かくすとのかくさせはせじ

出出出 急急如律令

月と日の神の光のあらん限りは

右の符を盗人の這入つた所が、足跡の附いた所に立て、日月の神に御燈明を捧げ一七日間、左の神歌を唱ふれば、盜品は必らず手に戻るものです。

「かくすともかくさせはせじ月と日の神の光りのあらん限りは」。

「くれないにそめてそのやにかくすとも色あるはなはかくされもせず」。

「日と月のひかりみつればしらなみの夜の浦わのかくれがもなし」。

◎(二十)眼病のまじなひ
生目八幡景清公を念じ、神棚に清水に少し鹽を入れたものを捧げて、左圖の通りに手早く空に書き、神歌を唱へながら目を吹いて此神水で洗ひ清めるときは、眼病の癒ゆること不思議の至りであります。

目 目 目

めめめめめめめめ

「景清くてらす生目のみづかどみ

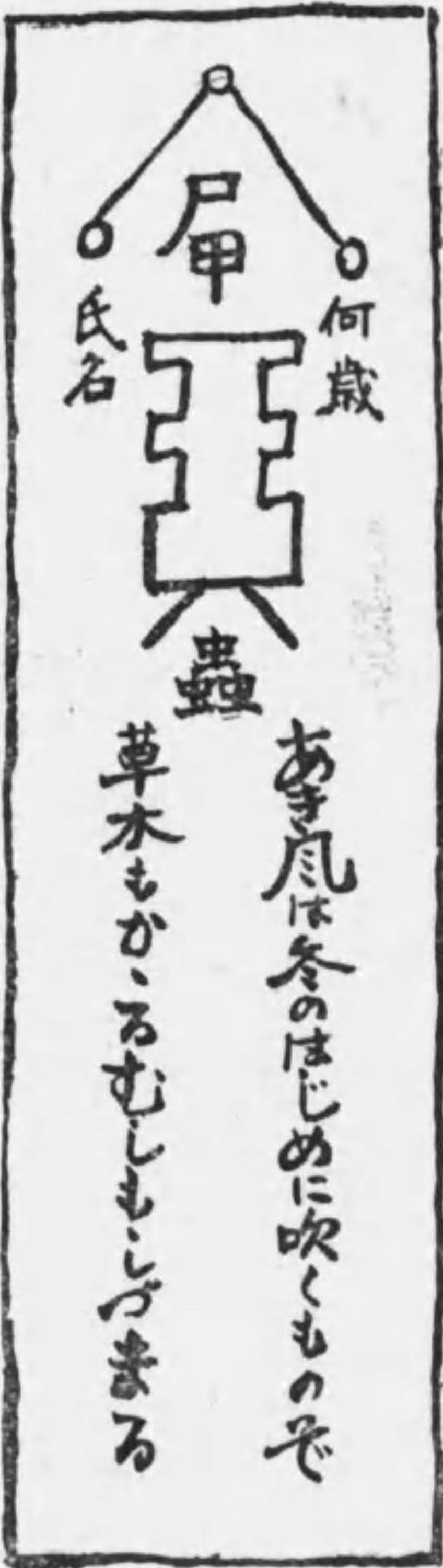
末の代までもくもらざりけり」。

◎(二十一)小兒蟲封じのまじなひ

右の符を青い木の葉に書き、それを竹筒に納めてよく封じ、竈の上に吊して置けば重い蟲氣の病も、治らぬ事はありません、但し青い葉に符を書く時は、左の歌を唱ふる事です。

「三日の月月かとみればかんの蟲このむしころせ十五夜の月」。

「あさかぜはふゆのはじめにふくものぞ草木もかゝる蟲もしづまる」。



「秋すぎてふゆのはじめは十月よ霜かれたればむしの子もなし」。

●(廿二)金山彦神傳治病のまじなひ
自分で病 症が分らず不快を感じずる際には、平座して両手を組み、船の揺るやうに自體を左右に幾十遍となく、靜かに揺つて、「金山彦大神鎮り給へ定り給へ」と、心中に唱ふれば、不思議に病症も判然して、此病は何より起つたと云ふことも覺られ、自然に快氣に向ふものです、之れは最も理想的な古代の靜座法です。

●(廿三)火難盜難を覺るまじなひ
夜間就床の際、布団に向ひ、指にて夫の字を空で書き、左の神歌を三遍念誦し、枕を奉拜する時、また夫の字を空書して、眠むれば、必ず火難盜難等の危難に目の覺むることは不思議であります。

「小夜ふけてもしもあとづるものあらばひきおどろかせ我が枕神」。
「ねるぞねだたのむぞたるきたてばしらまさかの時にはおこせ合掌」

●(廿四)神傳安産のまじなひ
大豆一粒を二つにわり、一方には伊の字、一方には勢の字を書き、合せて之れを紙に包んで飲ませれば、女兒は右の手に大豆を持ち、男兒は左の手に大豆を持ちて生れ出る不思議のまじなひ、まじなひを立てる者は左の神歌を唱へなくてはなりません。

「天の神天のやへぐも押し開け早やあきらけき日の光り見ん」。
「まるまだや山田が原にまくたねはけがれを去りてうまるみどり兒」。

●(廿五)龍宮神傳水難よけのまじなひ
下の神文を
横八分堅一寸二分に
切りたる紙に書き記し
裏面には神力拵と書き、更に左に記せる神札を以て巻き封じ。



呪ひの秘法

一三二

奉祈請 龍神 浦安御加持

梅神 水神

水上安全 身體堅固

護符

上包には左の神文を書き、大和飾りに包んで、肌身離さず守護神とすれば、水難を免れるのであるから、漁夫は勿論一般の海員は平生用意して置くべき事です、上包の神文と申すのは

龍宮 守符

河海 安全

●(廿六)諏訪神傳如意のまじなひ
左の神歌を念誦して事に臨めば、何事も成就せぬ事はありません、例へば鐵砲を打つ時は、筒口に神歌を吹き込めば必ず中り、網打つ時には、網に向つて唱へれば大漁があり、夜行に唱へれば悪魔の難を免れるものであります。

呪ひの秘法

一三三

表



「みなかたの神の御力さづかればいのらんことのかなはぬはなし」。
「野べにすむけだものまでもえにしあればくらさやみ路も迷はざらまし」。

●(廿七)稻荷神傳疼痛止めのまじなひ
奉書紙を丸く切つて、上の神文を書し、稻荷大明神を祈念し、祓ひ給ひ清め給ふの文字で、神の字を消し、此紙の上に杉脂を塗つて、打身、筋違、其他一切の痛みに貼付すれば、忽ち神蹟を見るものです。
奉書紙の神文に杉脂を塗る時に、左の神文を唱へる、

「たいちふひみよふ、たみしふひみよや
よくやも、おしこかひみよふ」。

呪ひの秘法



「よへばよふよばねばよばぬ山彦のたゞひと聲にことりよりくる」。

る路は神のかよひぢり。

一三四

◎(廿八) 稻荷あろしのまじなひ
先づ私の心願成就せしめ給へと唱へ、
更に

「天渡路く、地渡路く、東方渡路く、
南方渡路く、西方渡路く、北方渡路く、
中央渡路く、北座へ渡路く、
天降りませ天降りませ」。

と祈念し、三度左の神歌を唱へれば、必ず
神憑の不思議を見るものです。

「ちはやぶる千みち百みち七つ中な

鬼魁 鬼

噫々如律令

「うつれくりからのれからくれ渡らぬ谷も渡らしたまへ」。

◎(廿九) 荒神よけのまじなひ

荒神の谷を蒙り、一家病人の絶えざる時は次の符を家の入口出口に張れば、災厄を
免れるものであります、符を認めるに用ひる水は、天井水(朝汲み立ての水)に限る

◎(三十) 痘瘡、麻疹などの悪病神を防ぐ呪

先づ次の如き符を作つて棚に祭り、

呪ひの秘法

一三五

山 竈

唸々如律令

而して「東方千陀羅道、南方千陀羅道、西方千陀羅道、北方千陀羅道、中央千陀羅道」と唱へ、更に左の呪文を唱へて、右の符を呑めば奇顯あるものです。

「なうまく、さんまんだ、ばさうだん、せんた、まかろしやだ、そわたや、かんたらた、かんまん」。

×

×

×

×

×

×

×

×

×

●元三大師御籤判断

(附録)

第一 一番大吉

●此みくじにあふ人は千萬人になつとまるよ○やまいはながびけどもほんぶくすべし○ま
ちびときたる女ならばおそい○そしやうごとよし○うせものいはず○かけあいかつ○わた
ましこんれいたびだちよし○かひもの利あり○せいしはしす○このみくじはのぼりすぎつ
つしむべし

第二 一番小吉

●此みくじにあふ人はなにごとにも心にまかせずじせつをまつべし○やまいはながびけれど
なおる○まぢびとおそけれどきたる○そしやうは女の出家をたのみてよし○うせものいで
ず○やづくりわたましかけ地ならばよし○あらそひすゑによし○うりかひみあわせよ○せ
いしはいきる

第三 一番凶

●此みくじにあふ人はじせつをまつべしゑにうんひらくなり○やまいはながびけどもい
のちにさわりなし○まぢびとおそし○あらそひかないがたし○うせものきうにいはず○か
けあひすゑによしやづくりわたまし半吉○たびだちわるし○うりかひ利なし○いきしには
あやぶし

第四 一番吉

●此みくじにあふ人はのぞみあれどきうにはならず のちによしいそぐべからず○やまひ
ほんぶくすれどわざわいあり○まぢ人きたる○あらそひよし○うせものおそけれどでる○
やづくりわたましよろし○たびだちよろしけれどとちうあらそひあり○かひものすすみて
よし○いきしにいきる

第五番凶

●このみくじにあふ人はうんわるくそんありてものとくひちがひありされどはげみておこたらざればうんひらくあせるはわるし○やまひほんぶくせずあきなこせばよし○あらそひわるし○うせものいでず○やづくりわたましみやばすべし○あらそひまける○こんれいたびだちわるし

第六番末吉

●このみくじにあふ人ははじめわるくばんじこゝろにまかせずつみしみまればすへはよし○やまひへんびやうならん○うせものでがたし○よろこびごととはじめあしくすえはよし○やづくりわたましよし○たびだちこんれいわるし○いきしにあやぶしされどたすかる○かけあいごとすめばまける○あらそひさわりあり○まぢびときたる

第七番凶

●このみくじにあふ人はとかくさまたげありいろ／＼くらふすれどもいまだじせつきたらず○やまひだいなり○よろこびごとよきたよりなし○うせものでがたし○まぢ人みちにさはりありきたらず○あらそひ半よし○たびだちわるしいきしにあやふし○えんだんよるしからず

第八番大吉

●このみくじにあふ人ははんじやうしておもはざるりえきありされどもゆだんすべからず○やまひほんぶくすやうじやうあしければあともどりする○よろこびごとよし○まぢ人きたる○うせものでる○たびだちよし○わたましこんれいよろよし○あらそひよし○いきしにいきるゆだんすな

第九番大吉

●このみくじにあふ人はかぢふはんじやうのとききたりめうえの人のひきたてにてなにごともこころにかなふべししかしつゝむべし○やまひほんぶくす○まぢ人きたるよるこびあり○いきしにいきる○あらそひめうへのさしずをうくべしうせものでる○うりかい利あり○やづくりわたましこんれいたびだちよし○かけあひよし

第十番大吉

●このみくじにあふ人はいまではあしかりしがあはせなほりこれよりなをあげべし○やまひほんぶくす○まぢびときたる○あらそひかなふ○うせものでる、もしいでざればうせたるものよりよきものをうべし○たびだちこんれいよろし○やづくりわたましよし○いきしにいきる○うりかひよしよるこびごとよし

第十一番大吉

●このみくじにあふ人はいある人はなをあげ商人利をうるよるづ目上の人のひきたてにあいはんじやうするされどつゝしみひかへめにするをよしとす○やまひほんぶくす○よろこびごとよろし○あらそひかなふ○うせものでるいづべし○かひものよろし○やづくりわたましこんれいたびだちよろし○まぢ人きたる

第十二番大吉

●このみくじにあふ人はしんげいせしもよろこびにかはりしゆつせに向ふべしされどもいそぐべからず○やまひほんぶくすむかふ○まぢ人おそれれどもきたる○そしやうごとかなふ○うせものでる○やづくりわたましこんれいたびだちよし○あらそひかつ○かひものよし○いきしには十に八九いきる

第十三番大吉

●このみくじにあふ人はかんいんしゆつげなどほ大いによし平人はくらいまけするなり及ばぬのぞみをなすべからず○やまひ春夏秋冬ほんぶくす秋冬はながびく○よろこびごとばわけてよしゆだんすな○そしやうかなふ○やづくりわたましよし○まぢ人をそくきたる○うせものでる○かひものすゝみて利あり○いきしに八九分いきる

第十四番末吉

●このみくじにあふ人はさいげいあれどもいまだうん來たらすしんぼつよければ追々よし○やまひながびけどもいのちにさわりなし○よろこびごとすゑによし○そしよきまたげあり○まぢ人をそしうせものおそくでる○やづくりわたましこんれいたびだちいづれもかるはずみすれば害あり○かひものりあり

第十五番 凶

●此のみくじにあふ人はたびたびそんあり下人にもはなれなんぎ多しつしまざれば大事に及ぶ○やまいながびくいのちあやぶし○よろこびごとはかなしみとなる○うせもの出がたし○まぢ人きたらず○そしやうかなはず○やづくりわたましこんれい悪し○あらそひごとまける○うりかい利なし

第十六番 吉

●此のみくじにあふ人はうんひらきよるこび多しされど下人にしたしめばそん多し○やまひんぶくす○そしやうかなふ○失もの目上の人のちえをかるべし○うりかひ利あり○あらそひかつ○やづくりわたましこんれいたびだちよし○いきしにはいきる

第十七番 凶

●此のみくじにあふ人はこれまであしきことたえず此の上もくろう多し○やまひだんだんよわる○そしやうわるしうせものいせず○まぢ人きたらず○あらそひごとまける○よろこびごととのひがたし○せいしおぼつかなし○ばんじつむのほかなし

第十八番 吉

●此のみくじにあふ人はやう／＼うんひらけいまよりなにをしてもおもふやうになる○やまひんぶくす○よろこびごとよし○そしやうかなふ○うせものいでざりしもいづれはにをうしなひだいをうる○やづくりわたましこんれいたびだちよし○あらそひかつ○せいしいきる

第十九番末小吉

●此のみくじにあふ人はとかくまたげする人ありてはかん／＼しからず又目上にいぢわるき人ありてさへへらるゝていなり○やまひ長びけどもいのちにさわりない○待人おそくきたる○そしやう半吉○うせもの急に出す○うりかひ半吉○やづくりわたましこんれい半吉○生死は十の八九はいきる

第二十番 吉

●此のみくじにあふ人はやみからあかるみへでたるごとし心配ごとさりてはんじやうするなりされどつしまざれば凶なり○病しだいによし○待人きたる○そしやう吉○家づくりわたましこんれいたびだち吉○うりかひ吉○うせ物出る○よろこびごと吉されどひかへめにするをよしとす

第二十一番 吉

●此のみくじにあふ人は今までのあしきことはさりてだん／＼仕合よくなるたちなりつしまよければいよ／＼はんじやうするなり○病本ぶくのかたちなれどゆだんならず○よろこび事七八分となふ○待人来る○失物出る○そしやう叶ふ○やづくりこんれいなどよろし

第二十二番 吉

●此のみくじにあふ人はあしきことさりてやう／＼うんのひらくときにむかいしなりされどひかへめがよし○病なをりぐちなり○待人おそく来る○訴訟ひまどる○やづくりわたましこんれいたびだちよろし○かひもの吉うりものいそがぬがよし○生死はいきる

第二十三番 吉

●此のみくじにあふ人はうんひらけてよきことに向ふといへどもいまだ十分ならずだいなるのぞみをなせばさわりあり○病ゆだんしがたし○よろこびごとはじめはよし○そしやうごとはかどらず○うせもの出がたし○まぢ人きたる○かひものたぶんはそんなり○たびだちちかき所はよし○せいしは大事なり

第二十四番 凶

●此のみくじにあふ人はものごとへだてありじせつをまつべし○やまいながびけどもほんぶくす○うせものでる○うりかひわるし○やづくりわたましこんれいたびだちわるし○せいしはいきる

第二十五番 吉

●此のみくじにあふ人はこれまでかんなんせしがじせつきたりて花さく春にあひ目上のひきたてあるべし○やまいほんぶくす○うせものしぜんに出る○そしやうはかなふ○よろこびごとよるし○まぢ人きたる○やづくりわたましこんれいたびだちよし○うりかひ利あり

第二十六番 吉

●此のみくじにあふ人はよきもあしきもころしだいなり○やまいながびくべし○よろこびごとよるし○うせものいづ○そしやうあらそひごとかつまぢびとくるもおそし○やづくりわたましよし○こんれいたびだちもよるづよし○せいしはあやふし

第二十七番 吉

●此のみくじにあふ人は出世の時きたれどもゆだんすれば又くろう多し○やまいほんぶくされどゆだんはしがたし○よろこびごとよし○そしやうかなふ○まぢ人きたる○やづくりわたましこんれいたびだちうりかひよし○うせもの出る○せいしいきる

第二十八番 凶

●此のみくじにあふ人はものにくすむはわるしきながにみあはすべし又あたらしいことにかゝるもよろしからず○やまいほんぶくす○そしやうはかなふ○うせものいはず○あらそひごとかつ○まぢ人きたらす○うりかひ半よしやづくりわたましこんれいたびだちよろし○せいしいきる

第二十九番 吉

●此のみくじにあふ人はしいにうんきたりてよしと目上のさしづにしたがひてかせげはおいよくなるべし○やまいまぢしき人はよくなるとめる人はながびく○いはいごとよし○まぢ人來たる○まぢしきものはそしやうかなふとめるものはかなふもあとにやぶる○うせもの出るうりかひ利あり○せいしひんじやはいきる

第三十番 半吉

●此のみくじにあふ人はたからを見ながら手にとることができず此の上なんぎなることありおよばぬのぞみやめじせつをまつべし○やまいあやふし○うせものいはず○まぢ人きたらずそしやうかないがたし○うりかひわるし○やづくりわたましこんれいたびだちよしとわるしせいしはあやふし

第三十一番末吉

●此のみくじにあふ人はげいのうありとも何ごともきふにするはよろしからずじせつをまてば出世の時きたるべし○やまいなをる○よろこびごとよし○そしやう大いによし○あらそひごとは始めわるく後ばよろし○まぢ人おそくも來る○うせもの出る○やづくりわたましこんれいたびだちよし○うりかひよしせいしいきる

第三十二番 吉

●此のみくじにあふ人はよき奉行人をうるか目上の引立によりてしやわせよけれどものはじめはくらす多し○やまいながびけどもいのちにさはりなし○よろこびごとよし○そしやうはかどらざ○失せものきの付ぬ所よりいづ○そしやうかなふ○まぢ人おそし○やづくりわたましこんれいたびだちよしせいしはいきる

第三十三番 吉

●此のみくじにあふ人はちえありながらこれまでうんわるし今出世のとききたりこれからはんじよすべし○病ほんぶくす○よろこびごとよし○そしやうはじめわるくのちによし○まぢ人來るうりかひ利あり○うせものおそく出る○やづくりわたましこんれいたびだちよし○せいしいきる

第三十四番 吉

●此のみくじにあふ人はふるきことをあらためあたらしき事をなすとよし○うんはむききたりしも十分ならずしずかにはかるべし○病本ぶくす○よろこびごとよし○そしやうはむききたりまぢ人おそくきたるうりかひ利ありたゞしそらばかわることあり○やづくりわたましだちよし

第三十五番 吉

●此のみくじにあふ人はみをはげませば大いに出世すべし○やまひほんぶくす○待ち人おそれど來たる○そしやうかなふ出家醫者などにたのみてよし○あらそいごとばちえある人にたのめばかつ○うせものはおそくてもでる○やづくりわたましこんれいたび立ちよるし○うりかい利あり

第三十六番末吉

●此のみくじにあふ人はうんきあしく物事はかどらずすえにはうんひらくなり○やまいはながびけどもかいふくす○待ち人おそくくる○うせものいでず○そしやうさまたげありてはかどらず○あらそひあとにかつ○かいものわるし○やづくりわたましこんれいたびだちは凶なり○生死いきる

第三十七番末吉

●此のみくじにあふ人は心配たゑることなくふしあはせ多くうづもれるていなりよくつしむ時は末はよし○病は本ぶくす○まぢ人をそくともきたる○うせものおそく出る○そしやうごとときふにかなはず○かいものはあとに利あり○やづくりわたましこんれいあとによし○たびだちわるしせいしいきる

第三十八番半吉

●此のみくじにあふ人は今まではくろもなかりしがおいしくあしきことつときてちりちりたるかなしみなり○やまいしだいにわるし○よろこびごとなし○まぢ人きたらず○そしやうなさばあとでくやむことあり○うせものでがたし○あらそひまける○やづくりわたまし半吉○こんれいたびだちわるしせいしは七八分はいきる

第三十九番 凶

●此のみくじにあふ人はうんきはなはだわるくのぞみあれども叶はず正しきならざれば火なん盗なんにあふ○病氣きうへんすべしゆだんすべからず○そしやうさわりあり○よろこびごとわるし○まぢ人きたらず○やづくりわたましあしき○うりかいそん有り○火なんありつゝしむべし○生死はしす

第四十番末小吉

●此のみくじにあふ人はよからぬ人におもいもよらずみをあやまることあり女色ゆうげいをつゝしむべし○やまいほんぶくす○よろこびごとよし○まぢ人さわりありておそし○うせもの人の世話にて出る○そしやう正しければかなふ○あらそひまけかちなし○うりかいはんよし○やづくりわたましこんれいたび立半吉

第四十一番末吉

●此のみくじにあふ人は手にとれさうなこともとれずそん多くしんるう多したゞしくすれば末はよし○やまひながびく○よろこびごとおそし○まぢ人たよりあるのみ○うせものいはず○そしやうかなはず○うりかい利なし○やづくりこんれいたびだちわたましわるし○生死いきる

第四十二番 吉

●此のみくじにあふ人はあらたなることをはじむるによしたびあきなひもよろし○やまいほんぶくする但しながびく○よろこびごとあとによし○そしやうはかどらねどもかなふ○あらそひあとにかつまぢ人おそし○うせものいづ○やづくりわたましえんだんよし○うりかい利あり○せいしいきる

第四十三番 吉

●此のみくじにあふ人はうんひらかれたれどいまだ十分ならず正しければ人のたすけあり○病ほんぶくにちかし○よろこびごとよろし○まぢ人きたる○うせものきうにいせず○そしやう叶ふ○うりかい目上の人のふんべつにつくべし○やづくりこんれいわたましたびだち吉いきしにはいきる

第四十四番 吉

●此のみくじにあふ人は始めはこゝろずかいあるもあとによしなにごともておくれにならぬ様こゝろづくべし○やまいたびたびくるふ○よろこびよし○そしやうかなふ○まぢ人おそくきたる○うせものおもいもよらぬ所よりいづ○うりかいねんを入るべし○あらそひ半吉○やづくりこんれいたび立よし

第四十五番 吉

●此のみくじにあふ人は大なるのぞみあれどもわがちからでなすことかたく心を正しく主
おやにつかへてちからをかりてよし○病ほんぶくすよるこびごとよし○まちはやくきた
らす○うせものおそく出る○あらそいごと目上の人のちえをかりてよし○やづくりわたま
しこんれい吉○うりかいよし

第四十六番 凶

●此のみくじにあふ人はげん人も時にあはざるかたちわがちからにて出世せんとおもは
人のにくしみをうけることありつゝしむべし○病ほんぶくす○よるこびごとわるし○ま
人きたらず○そしやうかなはず○あらそひごとまける○うせものでがたし○うりかひわ
し○わたましこんれいわるし○せいしいきる

第四十七番 吉

●此のみくじにあふ人はのぞみかなれどもおそし一心にはげみおこなへば叶ふべし○
やまいながびけどもほんぶくす○よるこびごとおそし○そしやうかなふ○うせものうちに
なし○まちはやくきたるたびだちよし○こんれいわたましよし○うりかいよしやづくり
もよし

第四十八番 小吉

●此のみくじにあふ人ははじめはさわりありてたからも手に入らねどもあせればがいあり
べんきやうするにしかず○やまいながびく○まちはやくきたる○うせものいづ○あらそひ
先にまけあとにかつ○そしやうひなれば叶ず○やづくりわたましこんれい半吉○うりかい
あとに小利あり○せいしいきる

第四十九番 吉

●此のみくじにあふ人はよる十分にてあんなりされど花もさきみつればちりやすし
つゝしむべし○やまいゆだんなりがたし○よるこびごと十分過ぎてわるし○まちはやくそし
○うせものでがたし○そしやうかつあなどればしんすること有り○わたましこんやく半
吉○たびだちよし○せいしいきる

第五十番 吉

●此のみくじにあふ人はこれまでのことを改めてしんきにことをはじむるによしされどせ
んぞよりうけるげうをあらためるにあらず○やまいいしやをかへるか出やうじよるし○
よるこびごとそうだんをかけてよし○うせものである○あらそひごとかつ○やづくりわたま
しこんれいたび立大吉

第五十一番 吉

●此のみくじにあふ人ははりたるのぞみありていろ／＼くらうするこのころをばげま
してくつせづばついかたふ○やまいやがてほんぶくする○よるこびごと十分よろし○う
せものきうにいぞ○まちはやくきたる○そしやうきふにかなはず○やづくりわたまし
こんれいたびだちよろし○うりかいみあはすべし

第五十二番 凶

●此のみくじにあふ人はうんきあしくたとへばみのあやまちを人にうつたへられなんぞす
るていなり○やまいしん／＼すればなほる○まちはやくきたらず○そしやうかなはず○よるこ
びごとわるし○やづくりわたましこんれい半吉○たびだちわるし○うりかい利なし○せい
しあやふししん／＼すべし

第五十三番 吉

●此のみくじにあふ人はこれまではかんなんしたれどもやう／＼うんきもちなほしてなん
ぎうすらぎしていなり○やまいあやふかりしなほりぐちなり○よるこびごとおそかれど
もよし○待人おそかれども来る○うせもの出る○そしやうかなふ○家づくりわたましこん
れいたびだちよろしあらそいごとかつうりかいとも利あり○生死いきるなり

第五十四番 凶

●此のみくじにあふ人はうん氣あしくなにごとも心にまかせずさきへもあとへもゆけぬて
いなり○やまい大事なり○失せものいぞ○まちはやくきたらず○よるこびごとわるし○そし
やう叶はず○あらそひまける○うりかいそんあり○やづくりわたましこんれいたびだちわ
るし○せいし十に九おぼつかなし

第五十五番 吉

●此のみくじにあふ人はこれまでの心勞さりてふたたびはんじやうすされどころがけわ
るければ又もとのなんぎにかへるべし○病ほんぶくす○よろこびごとよし○まぢ人さわり
あれども來る○うせもの○そしやうやがてかなふ○あらそひかつ○やづくりわたまし
こんれいたびだちよし○うりかい利あり○せいし八九はいきる

第五十六番末吉

●此のみくじにあふ人は中年までうんきわるくのちはよし○やまいながびけどもほんぶく
す○よろこびごと有りとも又かなしみとなる○まぢ人おそれれどもきたる○そしやうかな
ひてもしんろう多し○うせもの○あらそひわかきはまけなり○うりかい半吉○こんれ
いたびだち半吉○せいしいきる

第五十七番 吉

●此のみくじにあふ人はうんあれどもいまだ時いたらず人にだんごうしてはかればよしつ
に大金をあつかふみとなる○やまいながびく○まぢ人おそれ○うせものでがたし○そしや
うかなひがたし○あらそいごとふんべつすればかつたんきなればまける○うりかいはんよ
し○やづくりわたましこんれい半吉○たびだち凶せいしいきる

第五十八番 凶

●此のみくじにあふ人は大いにあしくよろすまふならずさきへもあといかぬていな
り又りべつのもそもふくめり○やまいおぼつかなししんじんすればたすかる○よろこびご
とわるし○まぢ人こず○うせものでがたし○そしやうかなわす○あらそいごとまけ○うり
かいそんあり○やづくりわたましこんれいたびだちよろずわるし○せいしはあやふし

第五十九番 凶

●このみくじにあふ人はたゞしきうまれなれどうたがひふかくきさだまらずふしあはせな
り○やまいおぼつかなししんじんすれば千に一つたすかる○よろこびごとわるし○うせも
のいでがたし○まぢ人きたらず○うりかいそんあり○あらそいごとまける○やづくりわた
ましこんれいたびちわるし○せいしおぼつかなし

第六十番小吉

●此のみくじにあふ人はいきほいにまかせてあやふきことにかくるさうなりはなはだわる
し○やまいおだやかなりくすりてなほる○よろこびごとぜん人はよし○そしやうかなはず
○あらそいじだんするがよろしい○やづくりわたましこんれいたびだちなればよし○うり
かいはよし○せいしいきる

第六十一番半吉

●此のみくじにあふ人はいまだうんびらけずされど心正しければはつたつすることあるべ
し○やまいながびく○よろこびごとをそし○待人おそく來たる○うせもの子丑のかたにあ
り○あらそいごと半よし○うりかい半吉○たびだちわたましこんれいよし○そしやうた
しければあとによし○せいしいきる

第六十二番大吉

●此のみくじにあふ人は今はうんきよく人もうらやむみとなるべし○病氣はやくなをる○
よろこびごと十分よろし○まぢ人きたる○うせものいづ○そしやうかつ○あらそいかつ○
うりものわるしかいものはよし○やづくりわたましこんれいたび立いづれもよし

第六十三番 凶

●此のみくじにあふ人はうんきあしくくらう多しこゝろをとりなほして心じんすべし○や
まいあやふし○よろこびごと悪し○待人來らず○失物出がたし○訴訟叶はず○あらそい事
まけ○うりかい利なし○やづくりわたましこんれい旅立わるし

第六十四番 凶

●此のみくじにあふ人はうははらくに見えて心配多し人にもつけず苦らうするなり○病あ
やふし○うせ物出がたし○待人來らず○訴訟かなはず○よろこび事凶○うりかい損あり○
やづくりわたましこんれい半吉たびだちわるし

法秘のいなじきと占斷判命運

第六十五番末吉

●此みくじにあふ人はうんはあしくまことになんぎなりされど信心おこたらざればよかるべし○病長びく十一月より後は本ぶくす○よろこび事春はよし冬は凶○訴訟春は叶ふ○失物でがたし○まぢ人さわりあり○やづくりわたましこんれいたびだち凶○うりかい凶

第六十六番凶

●此みくじにあふ人は鳥のはねをのがれし如くふし合せつゞきてよわたりわらしこらへてじせつをねがふべし○病おぼつかなし○よろこび事凶○待人は来らず○失物出がたし○うりかい利なし○そしやうかなはず○やづくりわたましこんれい旅立みなわるし○生死あやふし

第六十七番凶

●此みくじにあふ人はよろづくひちがひうんきあしく一そくとびにあがらんとおよばぬのぞみをおこすことあり只じせつのを待つべし○病大事なり○待人は来らず○失物出でず○訴訟かなはず○よろこび事なし○やづくりわたましこんれい凶○賣買利なし○生死あやふし

第六十八番吉

●此みくじにあふ人はこれまであしきことありしがおもいよらぬさいわいきたりてかれ木に花のさくと云ふころなり○病治す○よろこび事吉○失物出る○待人はやくくる○訴訟叶ふ○あらそひ事かつ○賣買利あり○やづくりわたましこんれいたびだち萬よし○生死いきる

第六十九番凶

●此みくじにあふ人は何事もなきようなれどゆだんなりがたしさかりの花にわかちるるときおもひなり○病きゆへんありゆだんならず○よろこび事半吉○失物出がたし○待人は来らず○訴訟身におよばぬ事はがいあり○うりかい半吉○たび立其外萬事凶

法秘のいなじきと占斷判命運

第七十番凶

●此みくじにあふ人は少しの事より下人などといさかい大なるわざはいにいたるつつしむべし○病急へんあり○失物出がたし○まぢ人來らず○訴訟叶ひがたし○あらそひ事まける○よろこび事凶○家づくりわたましこんれいたびだち凶生死凶

第七十一番凶

●此みくじにあふ人はものをあらたにはじめんとすれどもいまだうんひらかずつゝしみまつべし○病ながびく醫者かへても凶○失物出がたし○待人は来らず○訴訟叶ひがたし○うりかい利なし○やづくりわたましこんれいたびだち凶○生死おぼつかなし

第七十二番吉

●此みくじにあふ人ははじめあしけれどもおひく吉にむかふなり心してつゝしむべし○病ながびけども治す○失物おそく出る○待人は来らず○訴訟久しくして後叶ふ○あらそひ事半吉○やづくりわたましよめとりむことり人をかゝへるなど半吉○賣買いそがぬよし○生死いきる

第七十三番吉

●此みくじにあふ人は今迄わるかりしがやうやくうんきたりてあんどするかたちなり○病だんだんによるし○待人は来る○うせ物出る○訴訟目上のちからにて叶ふ○あらそひ事うしろだてあらばよし○うりかい中人をいれて吉○やづくりこんれい旅立よし○生死いきる

第七十四番凶

●此みくじにあふ人はとかくあらそひ事たへずゆゑに損多し○病おぼつかなし○よろこび事としをへてよし○待人は来らず○失物出がたし○訴訟叶はず○あらそひ事まける○うりかい凶○やづくりこんれいたびだち凶

第七十五番 凶

●此みくじにあふ人はうんきあしく何事もはかどらずまようなり正じきにして時節をまつべし○病大事なり○よろこび事凶○待人來らず○失物出がたし○訴訟かなわす○あらそひまけなり○賣買利なし○やづくりわたましこんれい旅立わるし○生死いきる

第七十六番 吉

●此みくじにあふ人は身のぶんげんをしりておこなふ故天のめぐみをうけてだん／＼によしとなる○病ぜんには本ぶくす○待人來る○失物出る○訴訟正しければ叶ふ○うりいそがぬがよし買物はやきがよし○よろこび事ぜんには吉○やづくりわたましこんれい旅立吉

第七十七番 凶

●此みくじにあふ人はとどこうりがちにちあかずそれゆゑに一そくとびにせんとおもふなれどもわるしときいたるをまつべし○病ながびくよるこび事あり○失物出がたし○待人來らず○そしやうかなわす○あらそひごとまけなり○うりかいなし○やづくりわたましこんれい旅立凶

第七十八番 大吉

●此みくじにあふ人は正しくして忠孝のみちをわすれざるがゆゑによきことあるべし○病ながびくべし○失物おそく出る○待人おそし○訴訟事吉○あらそひのちにかつ○うりかい吉○やづくりわたましこんれいたびだち萬よし○生死はいきる

第七十九番 吉

●此みくじにあふ人は老いてもさかんにしてうんつよく人にまどわさるゝことなし○病本ぶくすしかながびく○よろこび事吉○うせものおそく出る○待人おそし○訴訟さわりあれどのちに吉○うりかいいそがぬがよし○わたましこんれい人をやとらなど吉○生死九ぶいきる

第八十番 大吉

●此みくじにあふ人は官員出家などは吉平人はくらいまげのかたちなり○病本ぶくす○失物出る○待人きたる○よろこび事十分吉○訴訟叶ふ○あらそひごとかつ○のぞみごとかなふ○うりかい吉○やづくりわたましこんれいたびだちよし○いきしにいきる

第八十一番 小吉

●此みくじにあふ人はわざはいへんじてさいわいとなりせつなれども正しからざれば凶なり○病本腹すれどもおそし○よろこびごとおそし○失物出る○待人おそけれどきたる○訴訟叶ふ○あらそひ事かつ○やづくりわたましこんれい旅立吉○うりかい利あり○生死いきる

第八十二番 凶

●此みくじにあふ人はうんきあしくおや子兄弟など不和となりわざわいおこることあり○やまひあやふし○失物出がたし○待人きたらず○よろこび事凶○訴訟叶はず○うりかい凶○やづくりわたまし火なんのおそれあり○こんれい旅立わるし

第八十三番 凶

●此みくじにあふ人はものを手にとらんとすれど心のまゝならずむだばねありてきんざい多し○病凶○うせ物出がたし○まぢ人來らず○訴訟叶はず○あらそひはまけなり○うりかい利なし○やづくりわたましこんれい凶○生死あやふし

第八十四番 凶

●此みくじにあふ人はばんじふさがりてつうせすしだいにおとるへなんぎすつゝしむべし○やまいしだいにあやふし○失物出がたし○まぢ人來らず訴訟叶はず○うりかい損あり○やづくりわたましこんれいたびだちわるし○あらそひ事まける○生死あやふし

第八十五番大吉

●此みくじにあふ人は大いにはつたつするうなりされどそのおそきをまちどうにおもはずじせつを待つべしとなり○やまい本ぶくす○失物おそく出る○待人はおそし○訴訟は叶ふ○あらそひ事かつ○うりかいゆるやかにして利あり○やづくりゑんだんだびだち吉○生死いきる

第八十六番大吉

●此みくじにあふ人は官員醫者などは吉平人はくらひまけるなり○病本ぶくす○うせ物出る○待人來たる○そしやう叶ふ○あらそひ事はかつ○うりかい吉○のぞみ事叶ふ○やづくりわたましこんれいたびだちよろずよし○生死いきる

第八十七番大吉

●此みくじにあふ人はおももよらぬさいわいうるか又は出世すべしたんきなればくいあり○病本ぶくす○失物出る○待人きたる○訴訟叶ふ○賣買利あり○よろこびごと吉○やづくりわたましこんれいたびだち吉○生死いきる

第八十八番凶

●此みくじにあふ人は大いにうんき悪しく妻子しんるいに心あはせくぜつありつゝしむべし○病おぼつかなし○失物出がたし○待人さわりあり來らず○訴訟叶ふ○うりかい利なし○よろこび事凶やづくりわたましゑんだんだびだち吉○生死凶

第八十九番大吉

●此みくじにあふ人はおもく用ひらるゝうんにむかいたりますすゝしみべんきよせばしだいにはんじやうすべし○病本ぶくす思ひよらぬよき醫者にあふべし○待人おそし○うせものはおそく出る○訴訟のぞみごと叶ふ○よろこび事吉○やづくりわたましこんれいたびだちうりかい吉

第九十番小吉

●此みくじにあふ人はまことありてよこしまの事なければ天のめぐみありて仕合よし○病本ぶくす信心してよし○あらそひ事かつ○賣買十分よし○待人來たる○失もの出るやづくりわたましこんれいたびだちよる事などよし○訴訟叶ふ○生死いきる

第九十一番吉

●此みくじにあふ人はいままでのあしきこともよろこびとなり何事もよかるべし○病本ぶくす○よろこび事吉○うせもの出る○待人きたる○うりかい早くして利あり○訴訟叶ふ○やづくりわたましゑんだんだびだちよろづよし○のぞみ事叶ふ○生死いきる

第九十二番吉

●此みくじにあふ人はいままでは住所などかわり辛苦なりしが今はらん開きしあはせになりたるなり○病本ぶくす○うせ物東の方たかき所にあり○まぢ人來る○訴訟叶ふ○よろこび事吉○うりかい利あり○たびだちあきないわたましこんれいやづくりよし○生死いきる

第九十三番吉

●此みくじにあふ人はそん多くしてなんぎなりしが今はらんのひらくじせつになりたるなり○病本ぶくす○失物いである○待人さわりありおそく來る○訴訟のぞみ事叶ふ○あらそひ事のちにかつ○うりかい後に利あり○やづくりわたましこんれいたびだちよし

第九十四番半吉

●此みくじにあふ人はらんきよしといへどもことば多くしてしそんずる事ありつゝしむべし○病長びく信心すべし○よろこび事おそし○待人おそく來る○失物出ず○訴訟は女の出家をたのめばよし○うりかい半吉○やづくりわたましこんれいたびだち半吉

第九十五番 吉

●此みくじにあふ人ははげみつとむる時は大にはつたつすべしされどいまだじせつにあらざるなり○病長びけども治す○よろこび事吉○まぢ人おそし○訴訟いそがねば叶ふ○あらそひ事後に吉○うりかいしづかにするとよし○やづくりわたましこんれい旅立吉○生死いきる

第九十六番 大吉

●此みくじにあふ人は位ある人につきて出世するされど人を見さげるべからず○病ながびけど本腹す○よろこび事吉○うせ物出る○あらそひ事かつ○うりかい利あり○待人來る○やづくりわたましこんれいたびだちよし○生死いきる

第九十七番 凶

●此みくじにあふ人はうんきおとろへする事はくいちがい又人よりじつがないとゆわれることありつゝしむべし○病あやふし○よろこび事わるし○失物出でず○待人來らず○訴訟凶○うりかい利なし○やづくりわたましゑんだんたひだち凶○生死あやふし

第九十八番 凶

●此みくじにあふ人はふしあはせつゝきて糸のみだれたる如しよく／＼心をはげましてふんばつすべし○病あやふし○失物いせず○待人來らず○訴訟凶○うりかい凶○よろこび事凶○やづくりわたましこんれいたびだちよろずわるし

第九十九番 大吉

●此みくじにあふ人はあん夜に月の出たるごとくこれまでのうれいさりてうんきなおりばんじ心のまゝなり○病本ぶくす○よろこび事十分吉○うせ物出る○待人來りめづらしきたよりをきく○訴訟叶ふ○うりかいよし○やづくりわたましゑんだんたひだちよし

第一百番 凶

●此みくじにあふ人は花ちりてまだ實もむすばぬていなりされば何事もとりつきはなし心がけ専一なり○病あやふし○失物出ず○待人來らず○訴訟あらそひ事凶○うりかい利なし○よろこび事凶○やづくりわたましゑんだんたひだちみなわるし○生死あやふし

○本書所持者は各地神社佛閣に御参詣に際しまして

御籤をおあげになりましても御札をお受けになる必要はありません、番號御記憶になつて本書と照合さればよろしい、夫れ丈本書所持者は便宜であります、事を附記いたしおきます。

法秘のいなじまこ占断判命運

昭和九年十二月五日三版印刷
昭和九年十二月十日三版發行

定價金 一圓

複製 不許

發行所 <small>大阪市浪速區元町二丁目</small> 忠文館書店 <small>電話大阪二二一九番 電話式五四六二番</small>	印刷者 <small>大阪市西區寺町通二丁目三番地</small> 岩岡忠一	發行所 <small>大阪市浪速區元町二丁目十五番地</small> 松浦忠次	編者 忠文館編輯部
---	--	---	--------------

9.12.6

終

